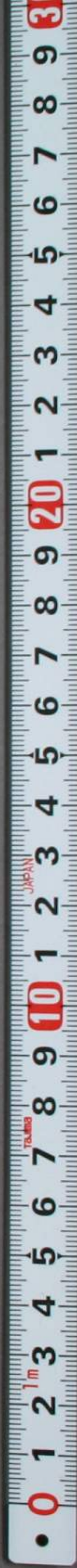


都名所圖會

平安城
二
再刺

ル 4
4598
2



門 4
號 4598
卷 2

都名所圖會卷之一目錄



宮川 鴨川の末之	座頭積塔	宮者殿系	平安城尾
六波羅羅蜜寺	愛宕寺	五條橋	境電井
太子堂	萬壽寺天満宮	獨行半郷塚	
市中金光寺	竹林院	新善光寺	本覺寺
首途八幡	清明社	姿見の池	建仁禪寺
羅河原夕涼亭	祇園會館	祇園御旅所	四條乃場金蓮寺
同山鉾圖	同芝居	蛭子社	阿古屋塚
十住心院	手洗水圖	目疾地藏	六道孫皇寺
焰魔堂	若宮八幡	鏡の池	境電社
長講堂	等善寺	鬼頭天皇	延壽寺
夕靄塚			

早稲田 大學 圖書館
昭 35. 1 28 交
藏 書

籬の池	藍染川	花園稻荷社	後成郷社
佛光寺	神明宮	大原社	白天神
因幡茶師	繁昌社	朝日宮	神明宮
諏訪社	新玉津湯社	菅大臣社	五条天神宮
一音寺	壬生寺	同程玄圖	蛭子森
新住吉	荒神社	化粧水	枚垣子
天道社	所右刀松	石上宮	久雀寺
本國寺 <small>加茂清正</small>	人丸社	醒井	西本願寺
古醒井	興正寺	常樂寺	東本願寺
東殿	松明殿	稻荷系礼湯	金光寺
成真寺	判官塚	宇賀社	藪内沼智家
芥根水	月見橋	稻荷社	不動堂
道祖神	稻荷湯旅所	藏王森	寛養石

春日森	古津旅	宋守長老	栗為社
古井社	清盛旧地	住吉社	東寺
三鈷松	松子坊松	死生門旧跡	大通寺
六孫王社	誕生水	滿仲公誕生地	欽喜森
福大明神森	人丸塚	晴系傾城町	

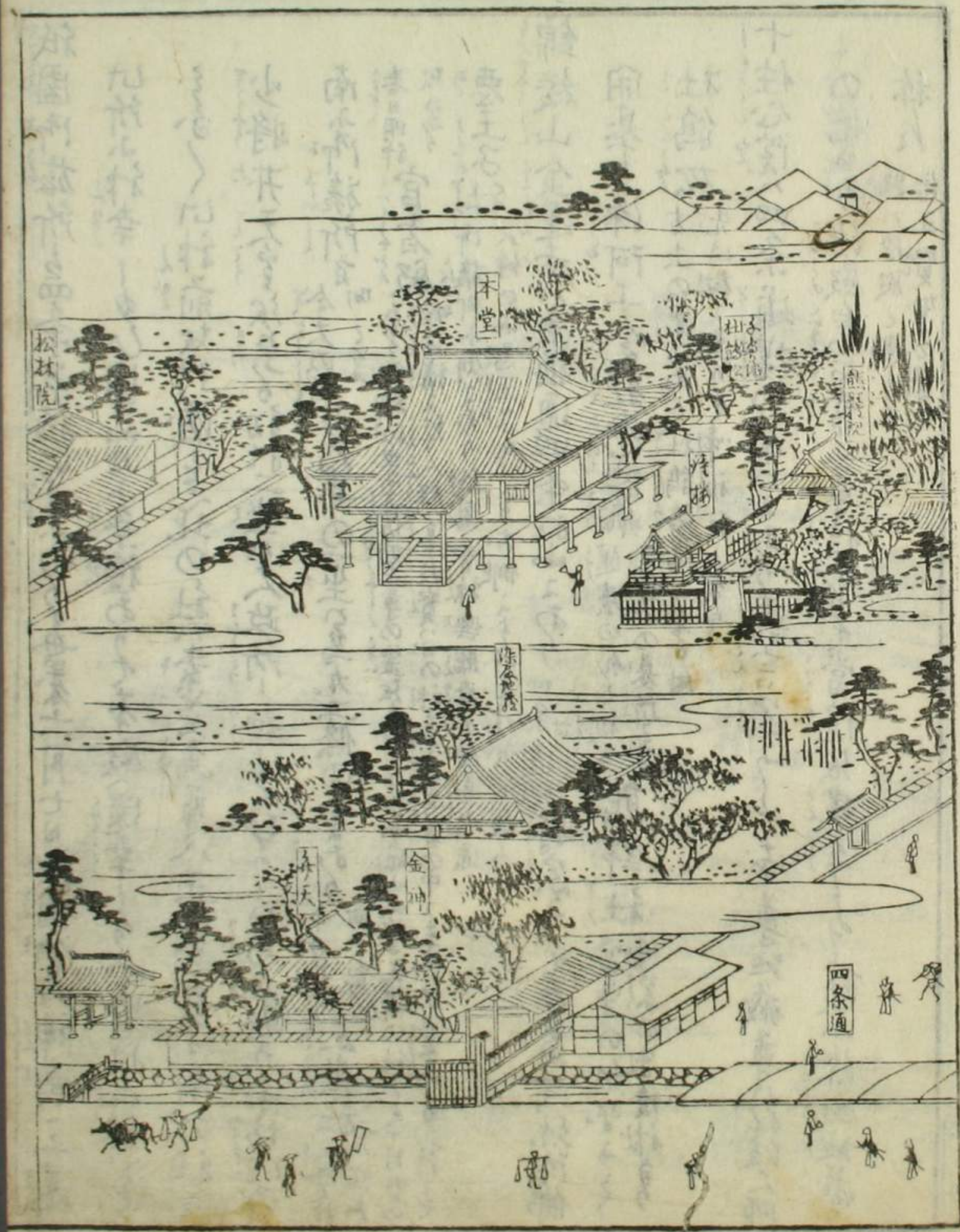


十月廿日
 十月廿日、
 とく四糸、
 官表殿、
 集、
 浮女も、
 ちりし、
 其夜、
 立ち、
 うし、

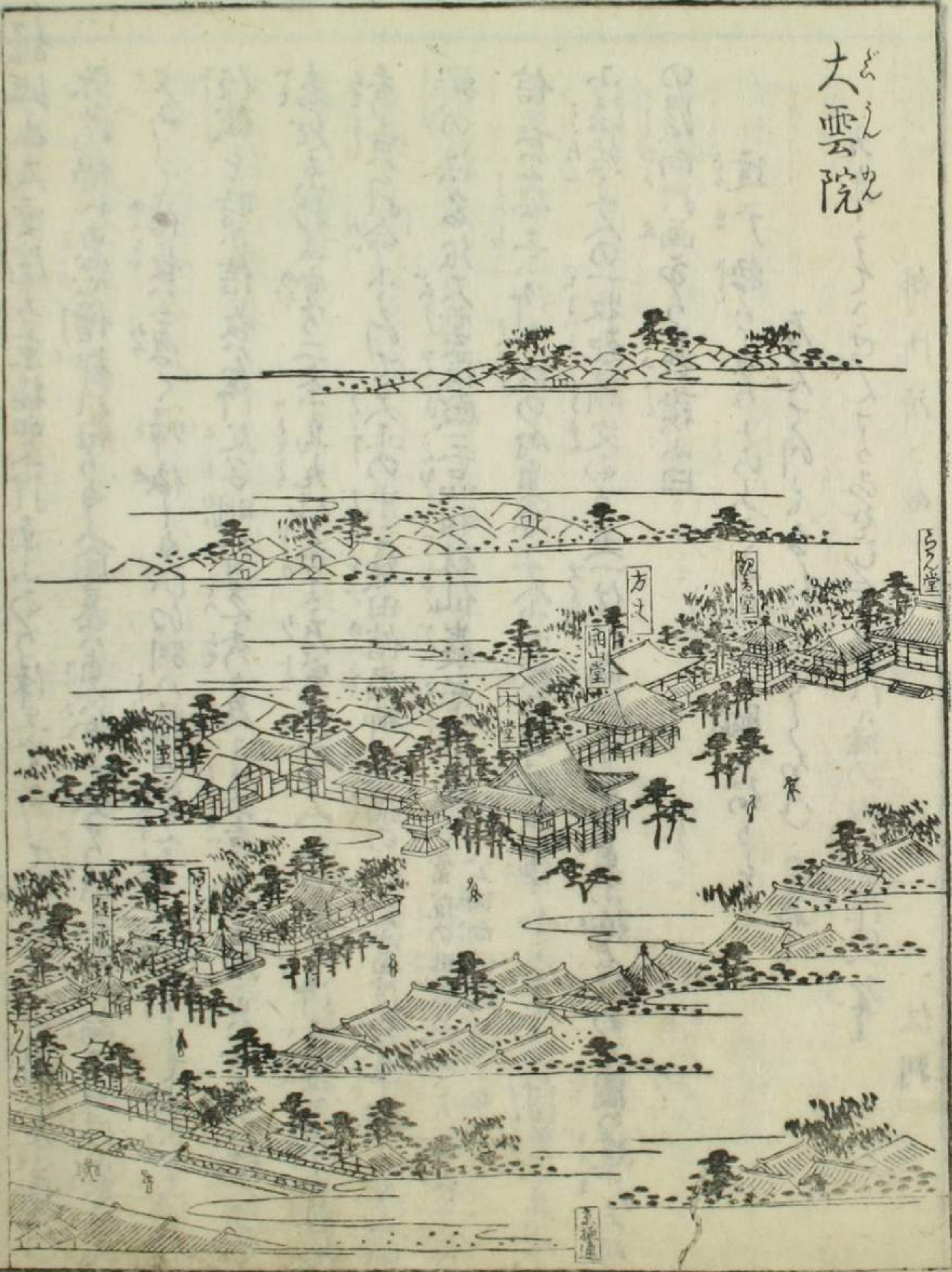
暖帳
 都々
 酒の
 ふしと漆

具角

春日
 河津
 三浦
 藤原
 源氏
 清和
 平家
 足利
 織田
 徳川
 豊臣
 伊藤
 朝比奈
 榊原
 柳川
 堀江
 坂元
 大塚
 高橋
 斎藤
 長谷川
 山崎
 石川
 渡辺
 池田
 山手
 東郷
 島田
 丸山
 長尾
 藤澤
 近藤
 森田
 新井
 野村
 上野
 山本
 佐々木
 木下
 坂本
 田中
 鈴木
 佐藤
 高木
 斎藤
 高橋
 山手
 山崎
 佐藤
 高橋
 山手



大雲院



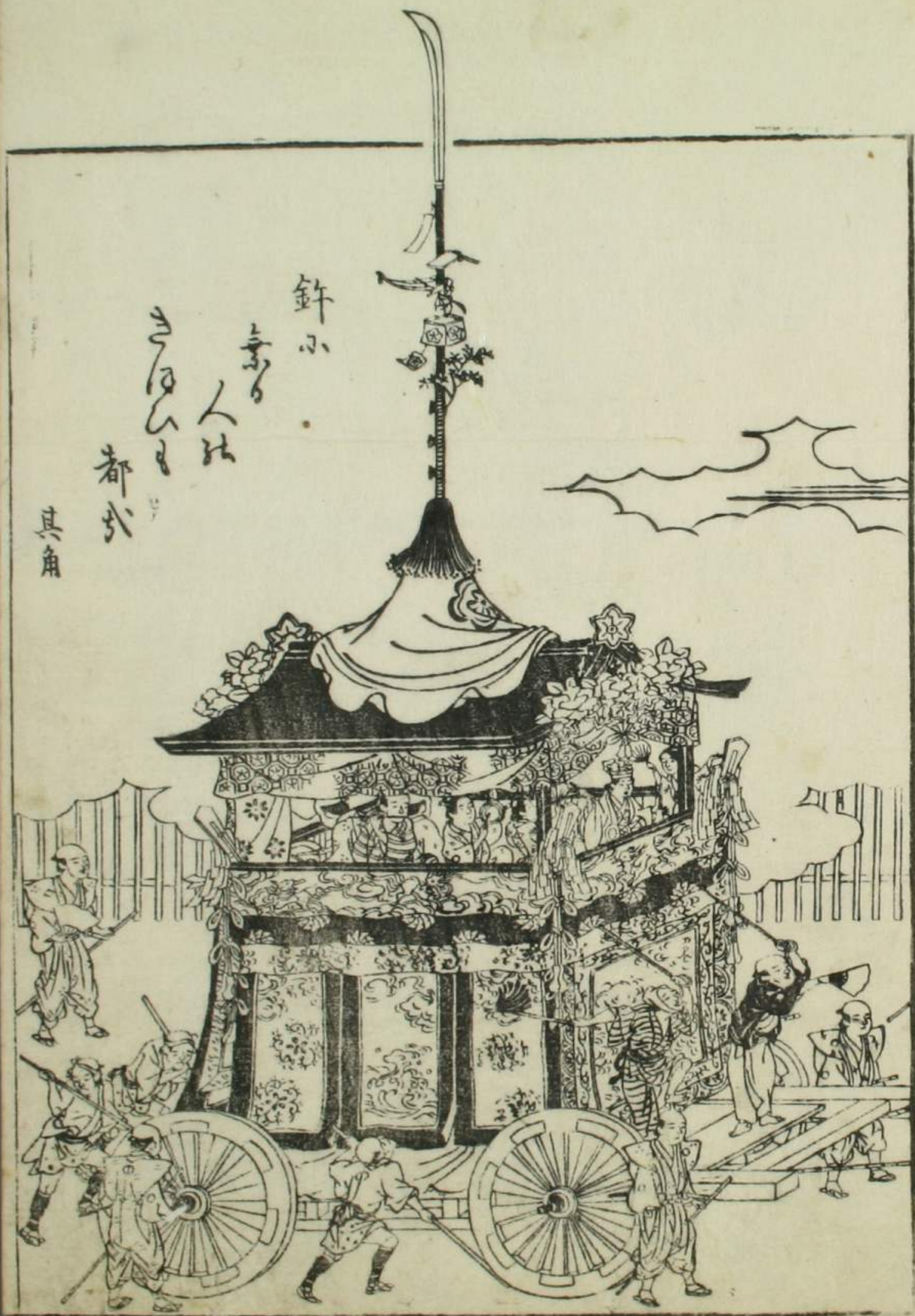
祇園御旅所を西条系極の辻あり毎第六月七日祇園會に神樂之基
 け所小神幸一むは十四日小祭禮ありて本殿(還幸)あり兩日れし鉾を
 ともかくい神前坂引後と北の社の素戔嗚尊八王子にあり南の社を
 少將井天宮御旅所を初祀一坐の大政所と號してひのゝ丸九通五条坊門の
 南小御旅所今大政所少將井の一坐の鳥丸二條の小あり今少將井三坐社八幡
春日明神官者殿所祀世土佐坊正尊の靈をあらわす此之又誓文拂の社と十月九日の
坂あり悪王子社御旅所小例あり祇園會神樂臨幸の時鳥丸通
 錦綾山金蓮寺極通四條れ小あり四條道場時宗ありて本尊阿弥陀佛
 開基を深阿上人之親慈地藏運慶のゆゑ初熊野社當寺の鎮守あり
 杜鶴松方丈の東あり杜鶴洛陽東あり
 十住心院四條道場の南口あり真言宗ありて本尊地藏尊弘法大師
 の化あり深殿皇后常小尊信ありて當院を建てる故人故小深殿地藏
 祇園類は深殿と書して僧正賢智の條

龍池山入雲院を京極四條北南ふりて澤土宗りて智恩院に屬し本尊阿彌陀佛の惠心僧都住持なり。同基貞安上人より一人安土論の附條に説き及んで信長公厚く帰依せしむ。別八幡宮西光寺を建立して貞安公を任職し時信長公清父子明智秀吉を為し生害せしむ。貞安上人傳令して秀吉系を登り二条烏丸を居室にす。人々ことごとく清吉と崇み其後秀吉公に命ふりて大正の末に織田信忠卿追福のため當院を草創し。ゆひ郷のはな名入雲院殿三品羽林仙巖居士と稱し。當院の號を以て出づり信長公信忠公同向塔に所あり
信長公安土下清成の附貞安上人七種の奇物名燭。今當院の什宝に具中一法然上人の一枚起請文あり是は休和尚の手あり奥繪換あり圖に達下大師の後向れ画あり具讃小曰

達下悟りたりと云ふや胸の何れも
なんぞのそらなわたりしやの事
九年まてせしむるあをむるに祇の附の蓮院の一
休判

佛所所

祇園會の系式は村毎年五月朔日致齋より四條河原町小柳とて是れ一乃華表の田地あり同北日の吉符入り鉾の町々小の難とあり神樂洗同晦日して御近挑灯煉物の行粧艶々として洛東の娘ひよ六月朔日鉾の児祇園系とて系物わづしに驛馬とて具行列花縣とてはし高貴の住まふ修り五月は深の引初六日の早天の六角堂小井のくく鉾行列前後の園取あり此日の夕々くまの青宮鎧とて小鉾とて小日のぬくぬくは挑灯とてく連て夜をくを難ふあり貴妙に群集ひり方あり七日は祇園會とて外の外より小鉾とて紅しとて四條通より系極と南へ松系西へ引後とてい日神樂の系れ末の系より感神院より御旅所へ神幸あり又八日より十四日は鉾の堂あり十七日は竹園取あり十四日は小鉾三條通と東系極と南へ四條河原西へ引後とて神樂の系式は河原所より四條河原西へ東洞院より神樂の南へ引別とて後より八條河原西へ旅社とて同列二系河東へ還幸しとて同十八日は神樂洗とて晦日等し祇園鴨川のかくりの竹葦に如く群とせり。小鉾の圖に二と等し全國御系古實の次ぎの祇園會細紀よりたやへらりて略し



會之園祇



山鉾の式いりへを
 名し異りては屋の定
 舞文舎人の玉舞舞竹
 の跳後家をね三車川深
 れ造りよ八指舞舞あど
 つのありて莊と鹿舞あり
 今和漢は錦浦さしひ
 七玉と編え初粧殿えに
 して天下第一のまねも
 といふ



家来
 かさたごん
 今名れ尾の
 衣た日ぬ
 神の園とせ
 今名れらん
 鳥家



手洗あり
 馬丸通綿
 小海れおろ
 ありむう
 大政所町
 紙園神樂乃
 所旅所あり
 と糸糸の輩
 ありそお
 ありたる
 け例よりり



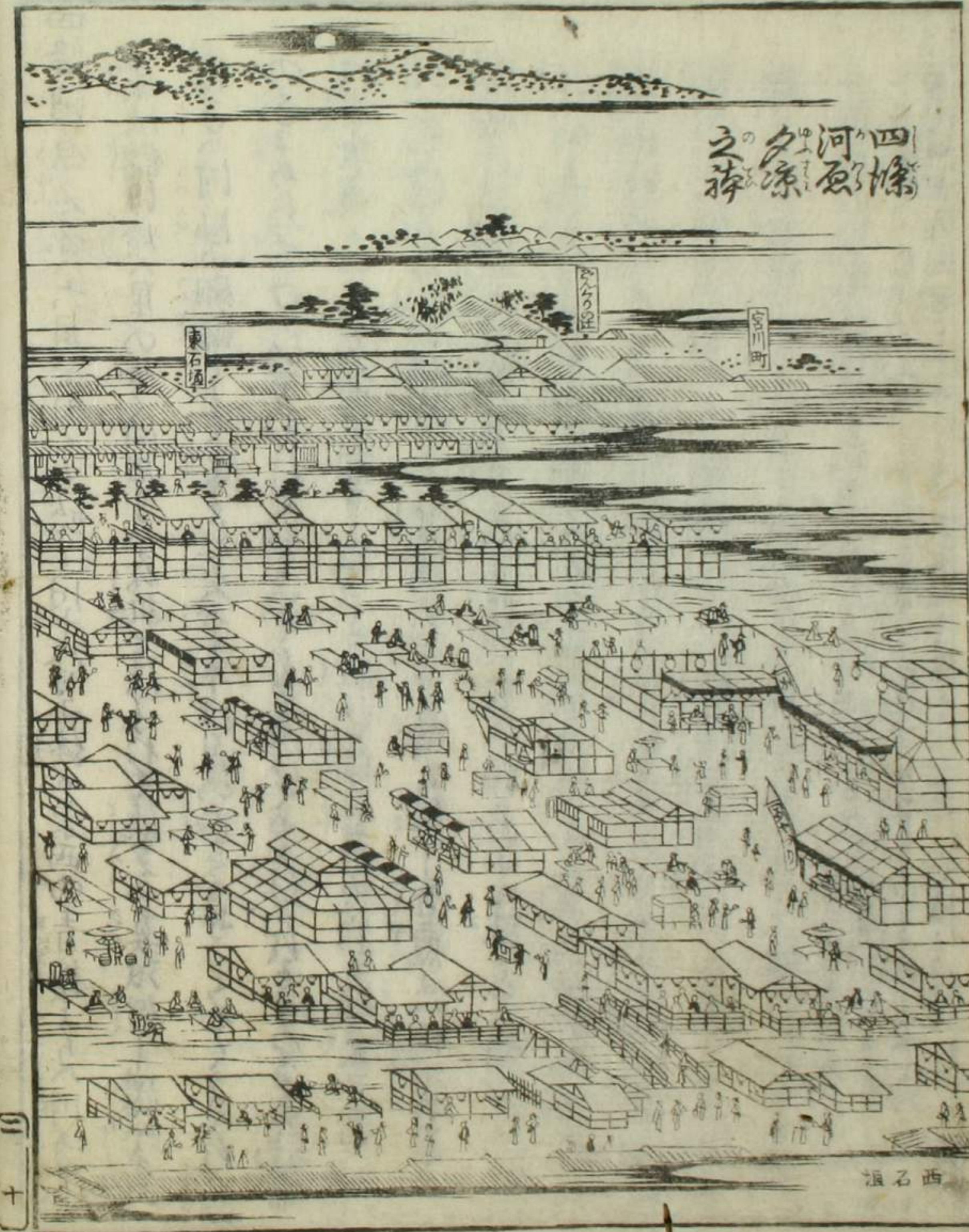
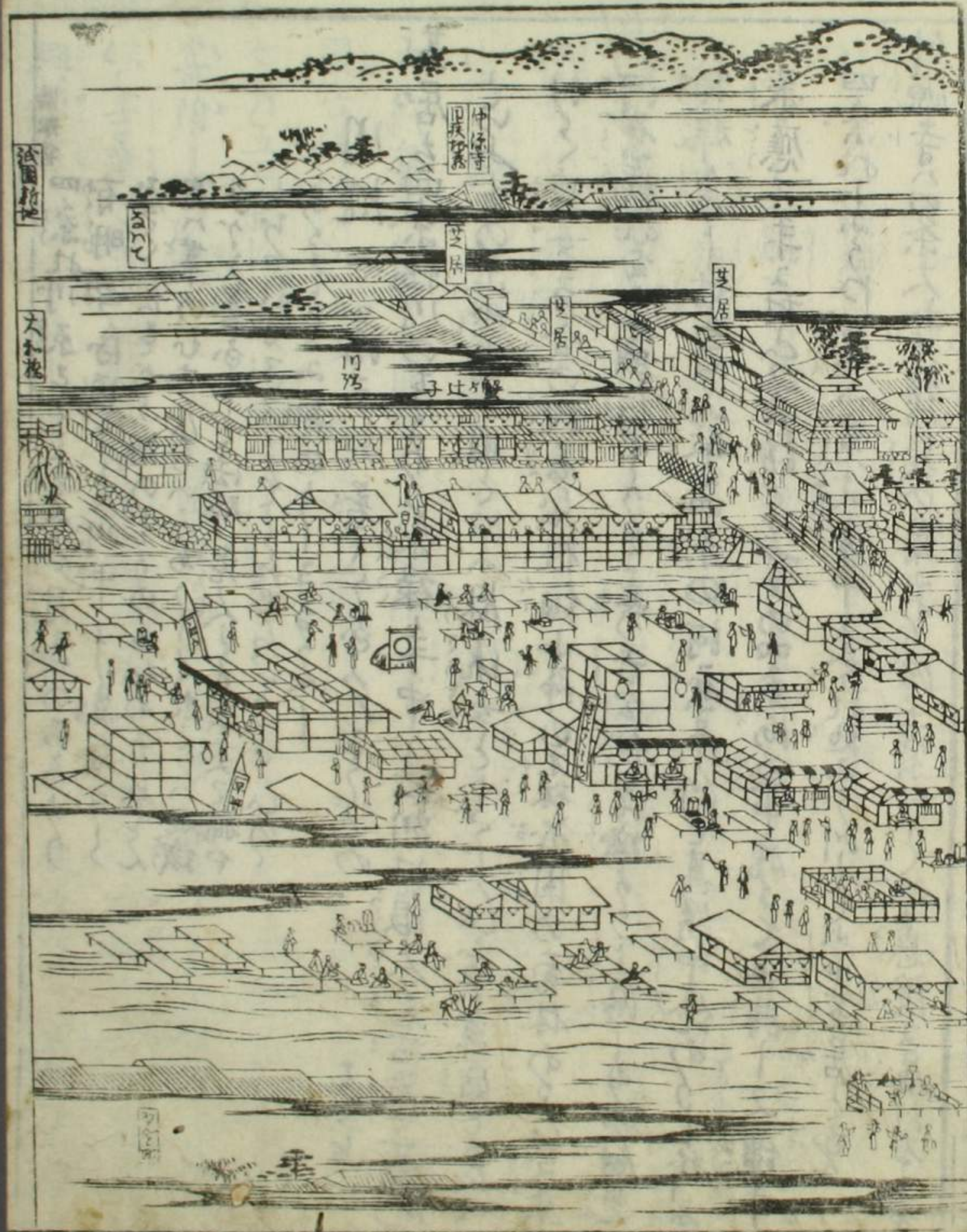
今も六月
 七月より
 十四日まで
 井坂
 初々々々
 子水所と
 凍冷する
 清泉にて
 比類あり
 け水取服とハ
 疫取
 のつらさ



座頭積塔とて人王五十八代孝天皇の姫宮雨夜内親王御眼盲ゆして
より唐中の女亡首者故先して御伽歌せし勢多し賤きみ宮となすし御前
不任とて御人御あといひ風儀とらそしより男子の盲人も宮後賜と
す友と称し檢校勾當の宮に御とらし内親王よりれ遺風あり
每来二月十六日へは姫宮の御祥忌をば御願集を故御して尊親故
拜し東北河原ふして石坂積を報恩とては故積塔とて又六月廿四日も
集會とてなすは故積の納涼ゆりありんも則し御吊りたりや
今高倉通五條坊門の山集會所ありて二箇の積塔とて會しと
琵琶故彈して平家故とてりて此法甚だ故勸るあり
又雨夜内親王御願ゆりての後の凍飢のときいあらんは不便り
相傳ゆりて唐湯のた女牛ふ長屋とて書つせり今京老のあつと
あつとあめりてをりては故を通過しといはた女牛の目とてりてり
ありとる

雨夜内親王の御事王代の系圖より分りしは後考あは

四條河原夕涼六月七月より始り十八日終る東西の青樓より入川を
床張儲け燈六星の如く河原より床机とて流るる女奴御濃此系乃
帽子へ河風小翻翻とて急なる女奴来れ月のぬきと押もろく扇
のふりめをてみややれをふもろくをてりてめれせりるるに女婦
れ今夜盛といろくをて草葉谷も及ぶる粧し且蘭鹿射はゆりて草葉と南へ
北へ乃淹糸の店ふ体とては吹のた香と醒と香煎と鴨川の流れ
取及びて京のあはれ輕故賞一の口吐し晋の郭象も勝とて懸河は水
はが如物ま似し函谷園も押もろく狂言大のすし曲馬曲松麒麟は温
渡靴轡れ付りて噴咽れ耳のいもろくをたは店又龍水流るとして暑故避
硝子音無とて候して涼風とて和漢は鳥深山は猛獸もあはれ
観とて尖紗群とて川を遊りて御杖川の例りて小蠅おはれと退散
牛頭天皇の御後氏將奉お教ぬりて人の遺法とて昔大内裏は御群臣一同り
せりて御あはれの人とて四葉おはれ相とて造化ある故まろく御生せりて故まろくも
火急の金をお慰とてりてその火急はあつとてりてり

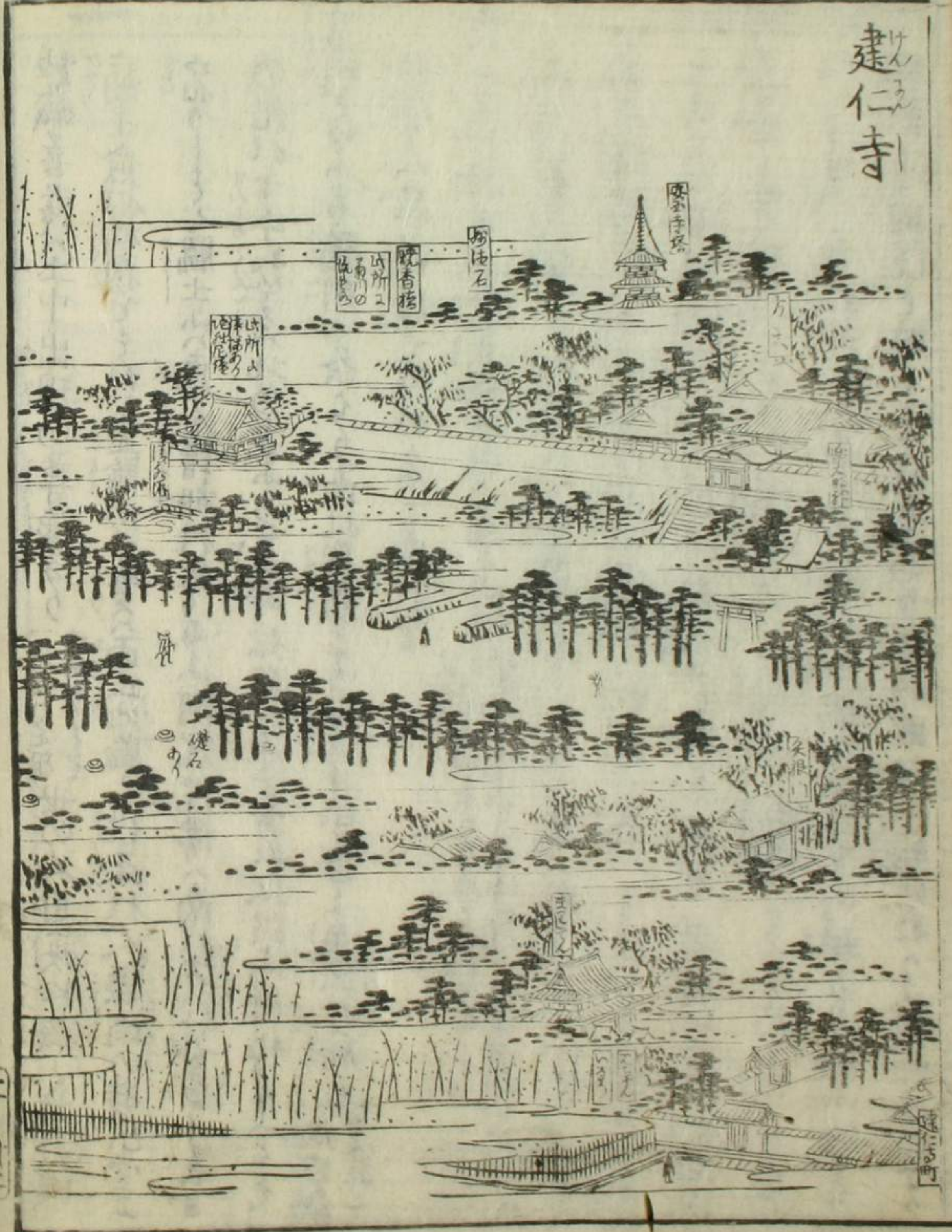
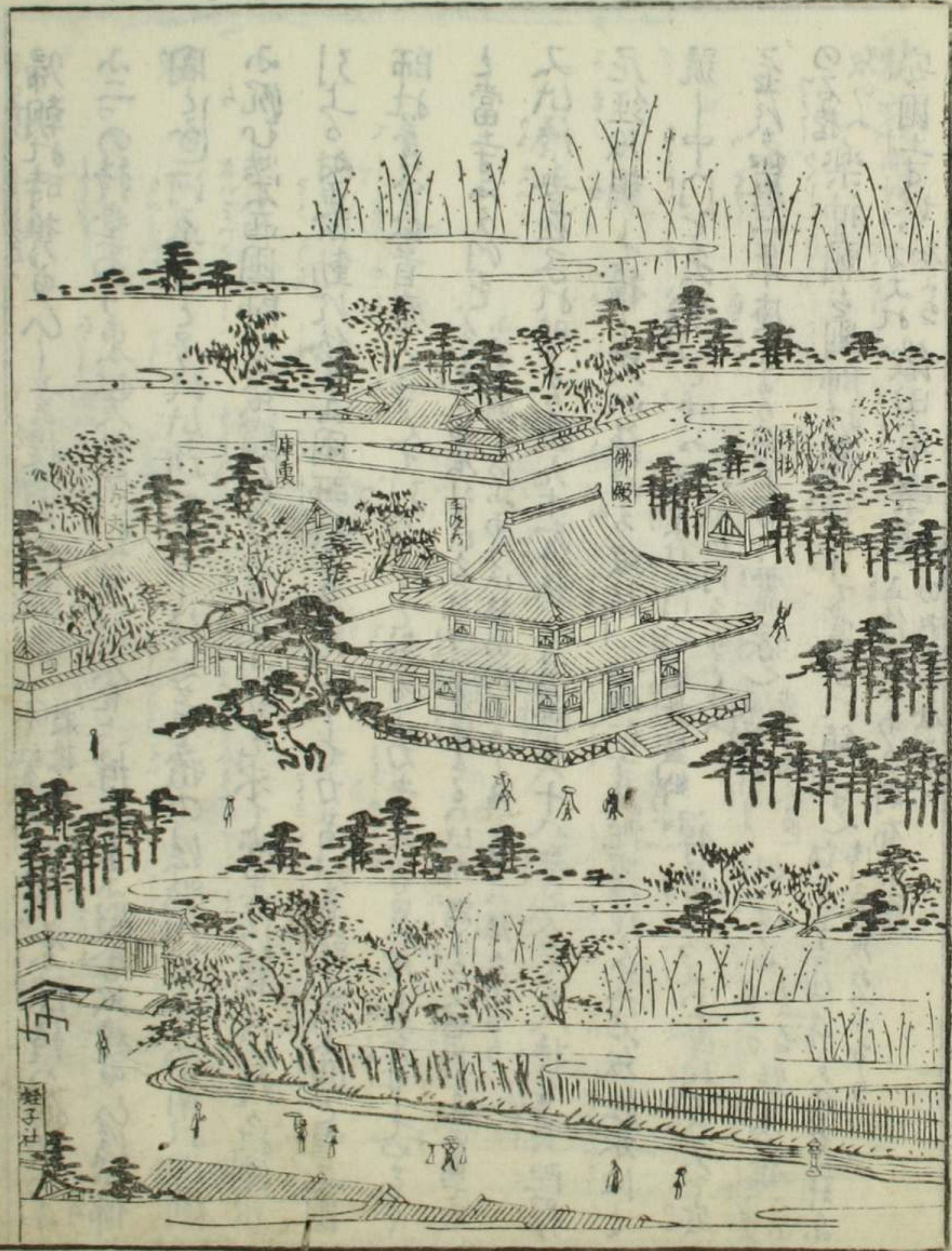


四糸川系をこゝと夕月夜のあらあり
有明のほつと川中より流るる
なほ夜をぐ酒のさけのさけを
ぬい帯のむすびりぬい帯の
みづらぎをみづらぎ法師老人の
みづらぎをみづらぎ法師老人の
みづらぎをみづらぎ法師老人の

川風や流るる夕月夜のあらあり
芝居も四糸鴨川のお園とつゝ風流女とつゝ
けく男女立合の狂女仕組小舞の本林祇園の南林あり
河原橋を興行しつゝ吉公伏見城より上洛しつゝ
物群集一坊ふりふ故ふ四糸の河原よりつゝ
兼應二年に村ふ又ま場とつゝ四糸河原中流より再興し又繩手
四糸れ小ふりつゝ遂ふ寛文年中に今れ地ふりつゝ常芝居とつゝ
仲源寺の四糸入和太後の異の角あり津土宗ありて智恩院に属し本尊

地藏菩薩の土中出現の尊像あり一説は定胡世の人目疾地藏と稱し眼
病平癒し祈願とつゝ靈驗あり實に雨止地藏之住來れ人驟雨の時堂に
宿りしと脇士ふ惠心僧都れ修りあり阿彌陀佛の南に安坐し去日
の能れ千手観音の北の方ふある法師の方ふ安ん弘法大師修りありと
宮川といふ鴨川四糸より南に別號ありむらけを禹王の廟あり洪水

後世人家建續て町の名とせられ
東山建仁禪寺の和太後四糸の南あり門前通四糸より南と建仁寺町と云ふ中これに
れ南より作道とて埵代といふ是れ建仁寺と云ふ
五糸の身二位ありて同基の千光國師葉上僧正講の榮西といふは備中
國吉備津の人ありて賀陽氏の薩列れ刺吏貞政の曾孫とて建保三年
七月五日寂れ七十土御門院に勅願ありて征夷將軍源賴家郷敷地と
寄附しぬ建仁二年に益益とつゝ造栄一勅願ありて寺号號
以て寺號とせり佛殿に本尊の釋迦佛脇士に迦葉阿難あり同山塔と
興禪護國院と號して東に丘あり榮西國師に廟塔あり又國師定國あり

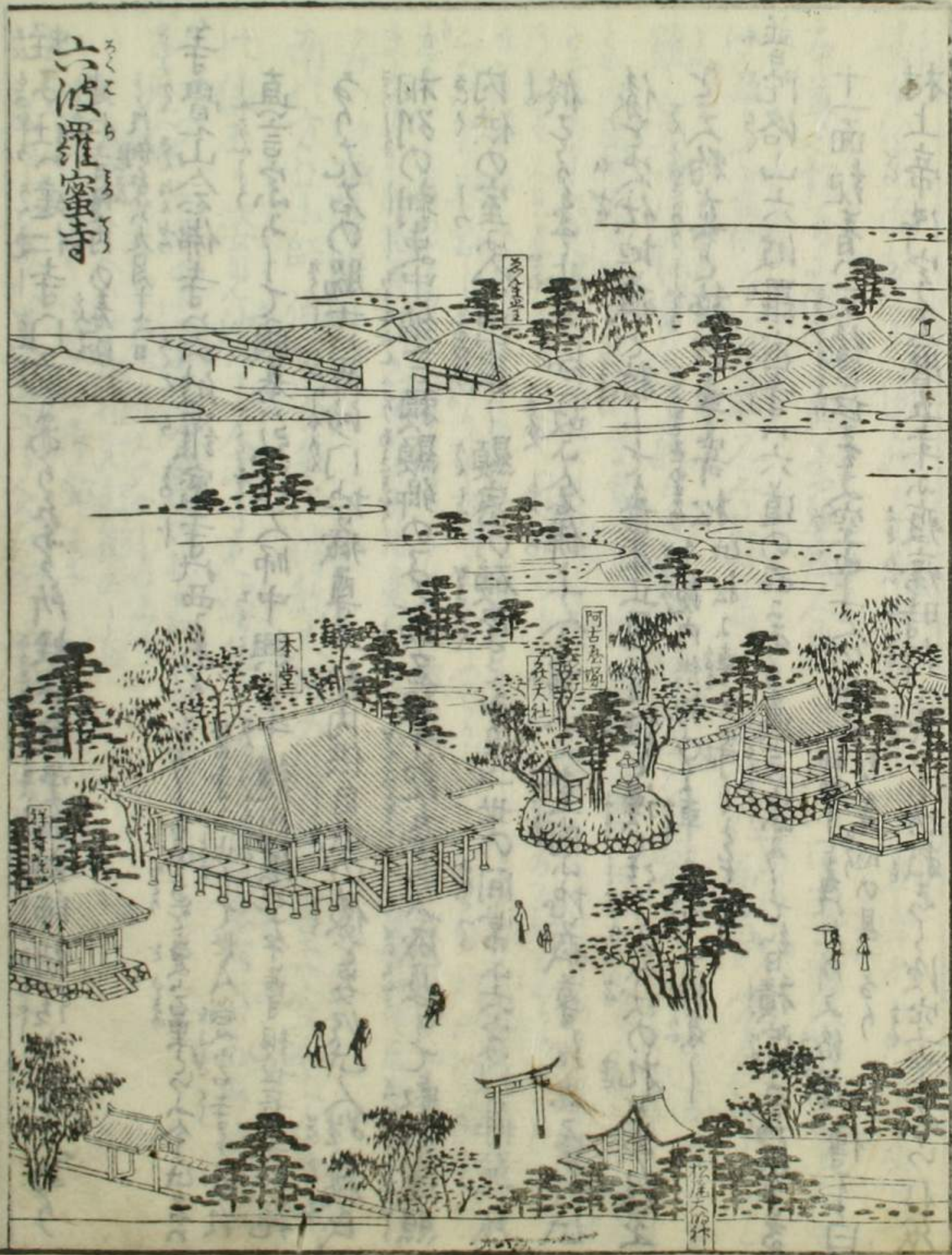


歸朝時携りて提樹の當院あり今般羅衣として河原院持の佛殿の小
 小二の待堂あり東に大鏡あり足融大長六條の京殿舎殿建のい後小佛
 閣と号河原院と号は所あり待之荒廢の後鴨川七条の南に深淵
 小況む榮西園師足融窺ひて官吏訴乞求て當寺に掲け鏡に刻
 引上る耐更ふ動はゆるみ園師をうひとて力者れ音頭と榮西と唱又園
 師は身子長首座と呼んて引上と教め力者大勢足融負尊してやとく
 と當寺ふらの門を今重さぬ引よはる候呼て運送とるは所謂り又鴨川七条の南七町
 又け後毎夜子れ時より教九十聲持之晨後八十八聲之合て百八持之昔の陀羅
 尼經教誦して撞し心此鏡はる候稱て建仁寺に陀羅尼の池に法水池と
 號し中門と久立門と呼ふ平家此門門脇教監郷禪居乃乃八摩利支天と安
 並及加曆一年唐土より將來せ靈像之應驗新し妙使石方丈の燒香橋燒香橋
 の石橋樂神廟を園師に勅造りて當に鎮守之後中五吉依津之の尊三神樂
 安園寺塔方丈に織田有樂塔正修院あり則有樂塔の教を盛あり

愛宕寺



六波羅蜜寺



六道
珠皇寺



上人あはれ成りて

世の中りてなれるの雨やうらわのほろにませりたり 空也上人

拾遺 一尊もあまをそ佛の人のまれどあはれあり 全

珍皇寺の建仁寺の南松系通あり 六通と 本尊茶師佛の傳教大師の位あり

用基の慶俊僧都中興と弘法大師皇堂あり 小野皇れ像とをなれ けし

道土の通 焰魔堂の東方あり 定後七月九日十日系清れ人け 續紙捲

て聖靈放逐しむる六道は 本堂の 當寺の久代平安城に葬所あり 植武

天皇延暦十二年小長岡よりいよるのむすめ けし所と後人の葬所あり

定めぬ由遷都記よりよりより 弘法大師の聖跡として 刺され長者官

北本堂いみし六道の東武町斗ふあり 北辰坂あり 植小高燈をた

うけり 城南淀川の田船運送の目當常夜燈とくやうに熊野に謡曲あり

北斗七星の曇るれと風六足之應仁の兵史ふと 一年金森宗和の府より

燈の倒れて苔に埋れ 旅寺僧より 上巻の時清水村小橋とい

晴明社に宮川町の東松系の小あり古は地は安陪の晴明の塔あり

新道の今も松系通あり 次本塚崩し平地とく 故ふに社を建て 具其なる

十禅師社を晴明社の南ありむらゝの境地度くして 樹林本林とく 牛乳丸

此林の松千軒ありとて 武藏坊毎度いけ 於て主堤れ 約とく

若宮八幡の五条橋東五町よりなる所 石清水と同神之初に六条佐女牛

小あり故に佐女牛八幡と號れ 例系八月十五日放生舎あり 舊地は若宮通 今れ

五条橋を初に松系通あり 別けりへ 五条通之秀吉公の耐い所よりと故り

五条橋通より 實立條坊門之欄干の紫銅擬寶珠九有十六本ありて

小の方西より四ツ目小橋の銘あり 維陽五条石橋正保二年酉十一月吉日

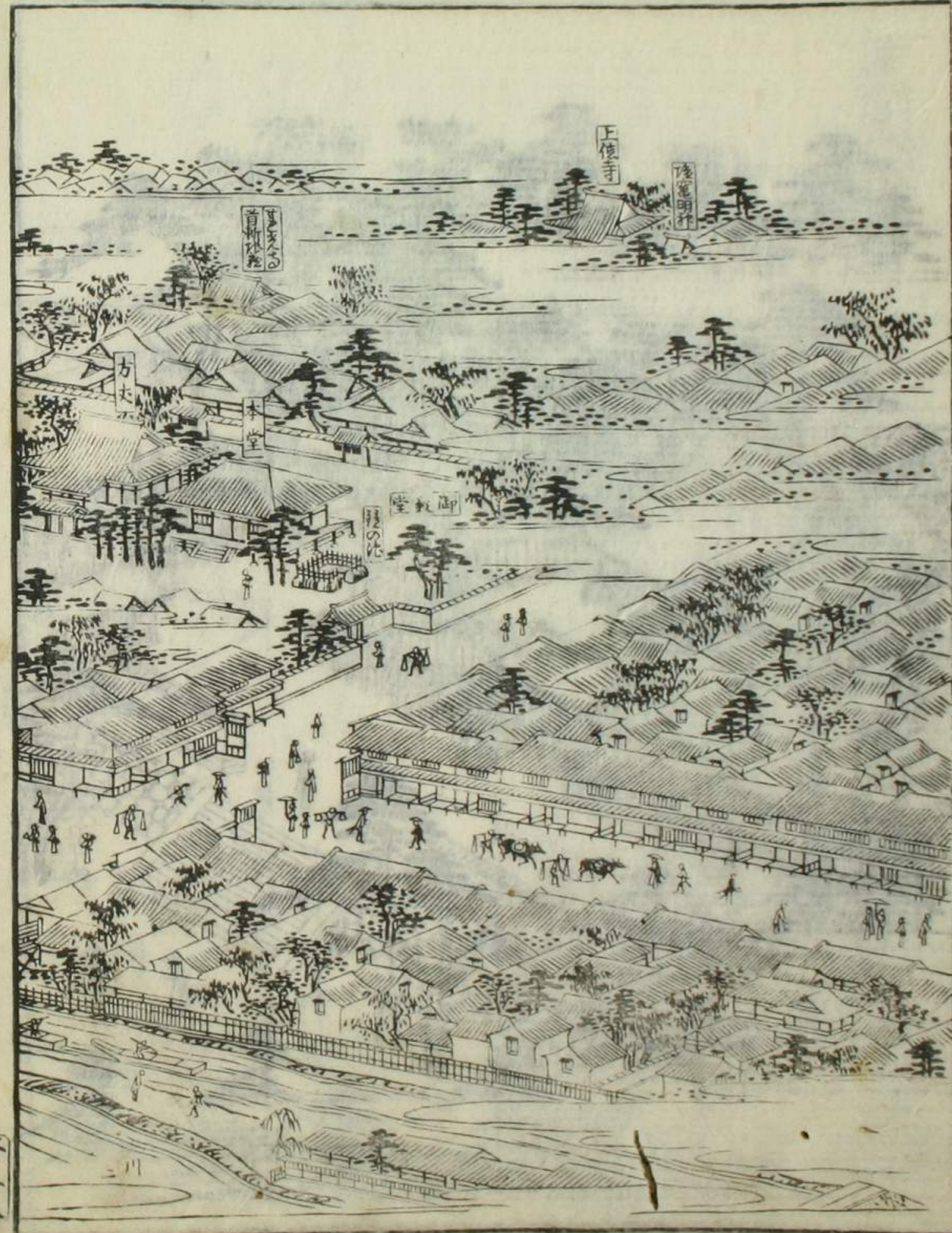
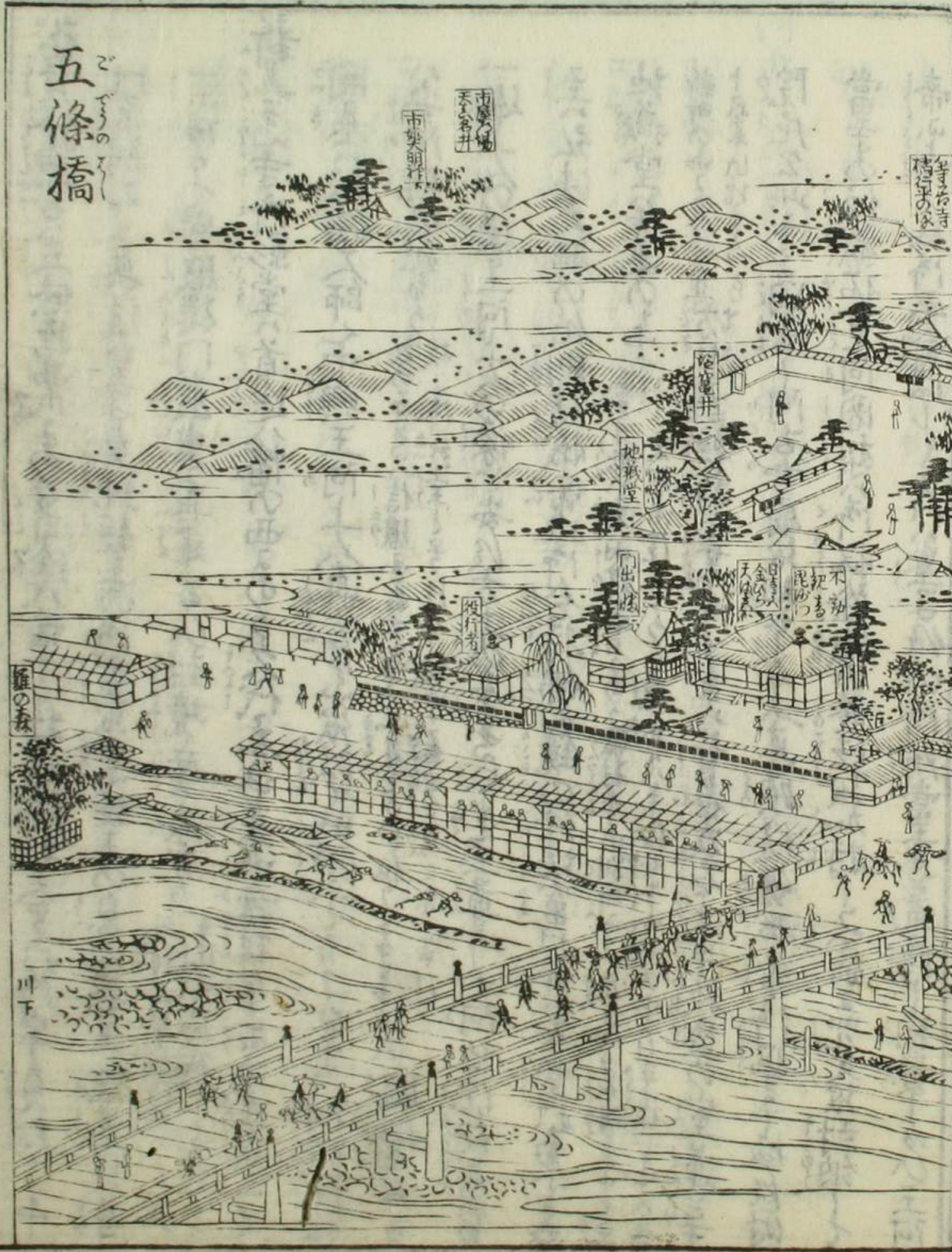
奉行 芦浦親音寺 舞真 小川 藤左衛門尉 正長

此橋上北米より東より西の勝地本の向く 致して平安に佳系あり

浦園者く 渡りくるとく へい



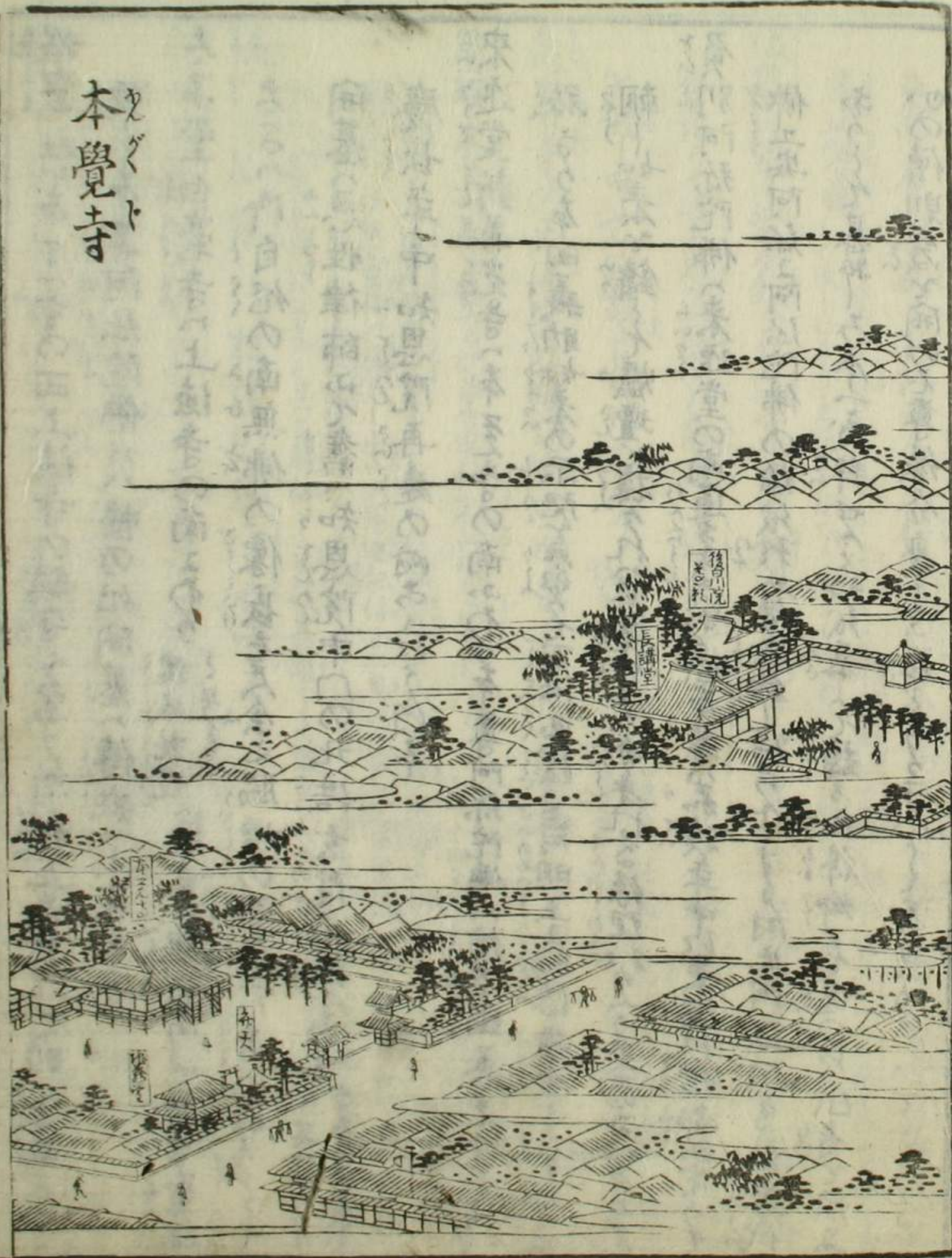
五條橋



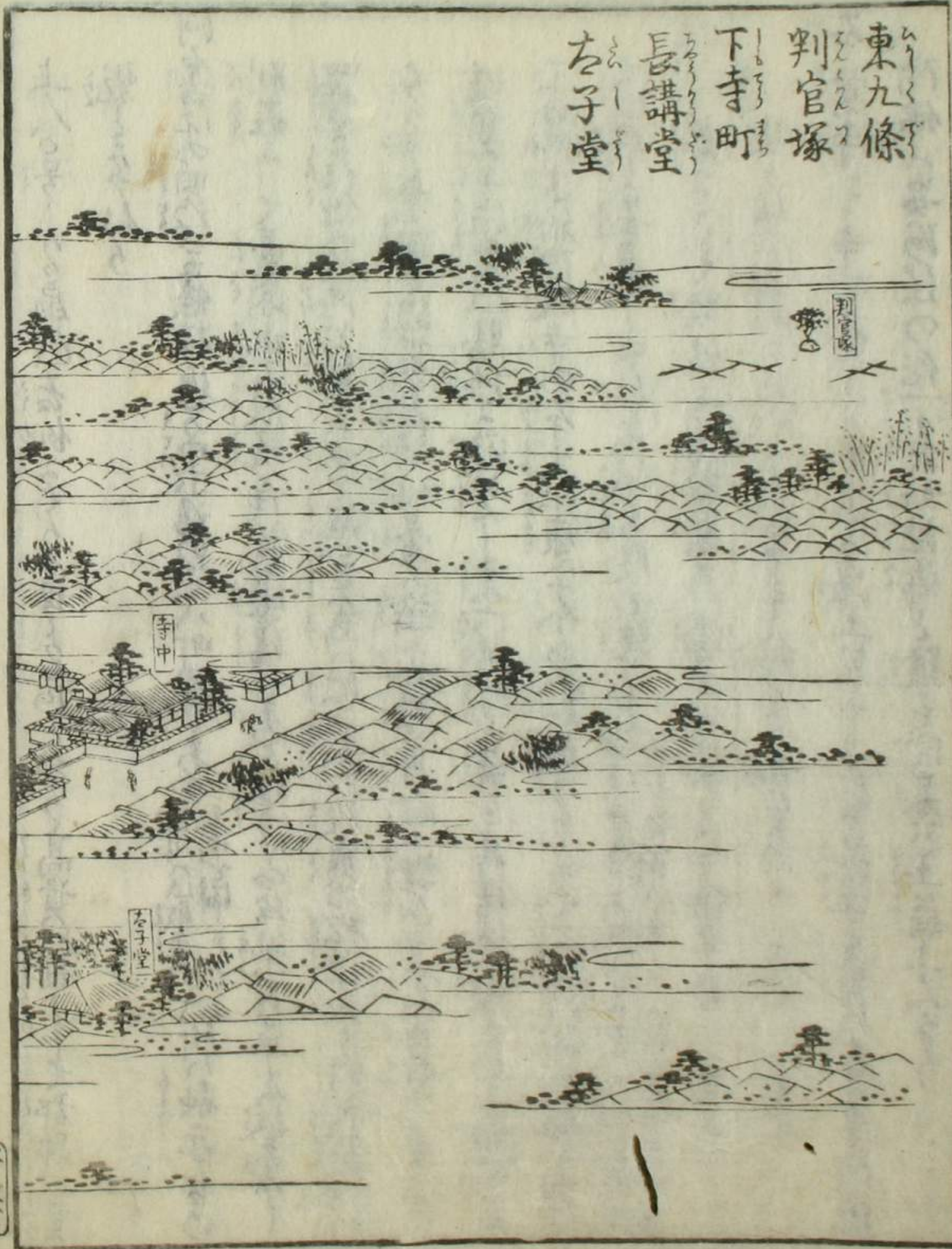
松豊八幡宮の五條橋西にあり首途八幡と称し清和天皇の御宇貞観年中
此草創なり貞後皇子貞純親王の御霊成系親王の息子孫王經基公尊
崇仰りて宮殿樓門嚴重再建ゆひ封境廣大あり 外封は八十二門ありしに
平治の代滅亡して地なき
新善寺御影堂の首途八幡の西にあり久代天皇年中極樂宮の建立ありて
開基弘法大師の中興王阿上人真言宗の宗匠にして時宗の御宇に阿彌陀
の安阿彌の修り 初の本寺は信濃五輪寺の如しなり依りて寺を修めしに
故に阿彌陀と号し今坊中阿彌陀殿あり 脇壇あり
一遍上人の像王阿上人の像と安方上人の像あり之三尊ありて阿彌陀親音對
至弘法大師の他則護國帝御持佛之鏡の池埴電井の本堂にあり
地藏堂の方丈のふ 當寺始に東洞院春日あり極樂寺の別所なり元安年中
十一年東洞院より遷りて應永八年佐々木牛室町のふに遷りて
新町のふに遷りて正 坊中小扇とあり葉とあり昔年友を交平教盛の室蓮華
院尼公此寺に閑居阿古女扇紙製なり其頃後護國帝御持佛之鏡の池
當寺の住職祐實阿闍梨深修除滅の修法教加持し又扇は呪文紙封納して
帝より即平愈はしく久し皇太子の御所當寺と再興し刹號あり王阿

上人と号し扇は古例よりて世々名物とあり高貴に献して都鄙に賞
玩とすなり
河原院の旧は五條橋通万葉の東八町四方あり 鴨川は殿舎に
所融たすの
別荘ありて墨窓水石風流を以て遊樂其美を擅りしに築て草木綴り
四時を以て池と殿舎の水と漚へ鳥鳥の戯れ陸奥の松崎の如し
夕日毎に潮と汲せ管絃の仙臺調文籍の月殿の歌びのふに花苑ありて
後宣平法皇は勝地遊樂し東六條院と號し其後佛圖とあり融
三の河子祇陀林寺の本主仁康上人の御遺徳を以て之を六釋迦佛と修り
ては院は安並ありははる系院と號し 今又條橋の南鴨川高瀬川の間にあり
ありははるの剎といはる系院の地
君を以て煙籠りて埴電乃彌るい人をもてはるり 貫之
後法橋
埴くはるりつるふるん 業平
本覺寺は下寺町又条の角あり淨土宗ありて智慧院に屬し本尊阿彌
陀佛に安阿彌の他一名は如法佛と號し開基は土公羽上人あり

本覺寺



東九條
判官塚
下寺町
長講堂
左子堂



埴竈社の本尊阿彌陀佛の西上徳寺の鎮守なる所融光大臣ありて則埴竈あはせと

號を本尊阿彌陀佛ハ幡の化田基ハ傳譽上人あり

太子堂白毫寺ハ上徳寺の南あり速成院宗旨ハ律宗ありて本尊聖徳

太子ハ佛自化の南無佛の像長を尺余之脇壇の四天王ハ唐化なりとて

田基ハ忍性律師少々舊ハ知恩院中門の北浩玄院の後あり今其地ハ井

慶長年中知恩院再建の時ありといふ

來迎堂新善光寺ハ本尊寺の南あり本尊阿彌陀佛ハ信濃國善光寺とい

稱さり本國義助如來の示現を崇めて百餘年齊明王ハ阿彌檀金七斤を鑄て

朝如來と鑄て爐壇と攝され其時より分身はる縁取れりといふ

負別阿彌陀佛ハ來迎堂の南蓮多あり本尊ハ本尊嘉禎年中ハ東國ハ僧都ありて

佛工安阿彌阿彌陀佛の像縁ハ縁取れり歸りてする阿彌陀佛ハ縁希代

ありといふ思押み今一度拜せり縁取れり縁取れり縁取れり縁取れり縁取れり

かの僧則發と用けを尊像分身して二尊とあり二人とも奇異の事ありといふ

東西負つて別る其地ハ今ハ村の角あり安阿彌陀佛ハ其像あり本尊と

馬止地あしぢハ寺あり其地ハ今ハ村の角あり安阿彌陀佛ハ其像あり本尊と

後白法皇ハ長講堂の南あり當寺ハ法皇ハ法皇の長講堂の過去帳あり

幸ありて貴賤と論ば殿内と違ふ亡魂と名帖と記しハ常ハ所圓向あり

と修めし所故ハ長講と稱す平家物語自れ後白川法皇の長講堂の過去帳あり

萬葉寺の天満宮ハ長講堂の南あり初ハ間之町万葉寺通の南あり

鬼頭天王ハ本尊寺の東南竹林院の堂内あり正安二年の長後伏見院ハ此所あり

官女とハ初連理の文とありハ初連理とハ八重重帷取とハ初連理とハ八重重帷取

重帷とハ八重重帷取とハ初連理とハ八重重帷取とハ初連理とハ八重重帷取

忽平愈と功はりて共ニ成佛ハ未代具證と頭とあり鬼頭天王と號し

橘行平郷塚ハ竹林院の南あり

市中山金堂寺ハ時宗ありて本尊阿彌陀佛ハ足利朝の化田基ハ上人

本願寺境内ありハ地賣人の市比賣社當寺あり其地ハ天眞井本堂の西あり

延壽寺ハ金堂寺ハあり本尊ハ釋迦阿彌陀佛ハ其像あり

夕靄の五條あり
今これ塚所松永あり
源氏物語ふち夕
うほのおい所ふ位
たりよしひたり

新古今
夕のほを
よあ

白露れ
ふさけ

ほのくみへー
夕靄の花

前左政大臣



籬の池い高倉五條の南宗仙寺の堂前あり井とる香河原院の封境ありて

真遺跡あり當寺い曹洞宗ありて因基は天江和尚之
本堂の額ハ
正水地事と也

藍染川の五條高倉坂にて間之町より人家下を南へ流る濁水あり
是も河原院に
ありといひ傳ふ

花開稲荷社の松永通高倉の西あり
稲荷町
け所ハ松永貞徳公羽居所ありて
俳書并傘坂撰と

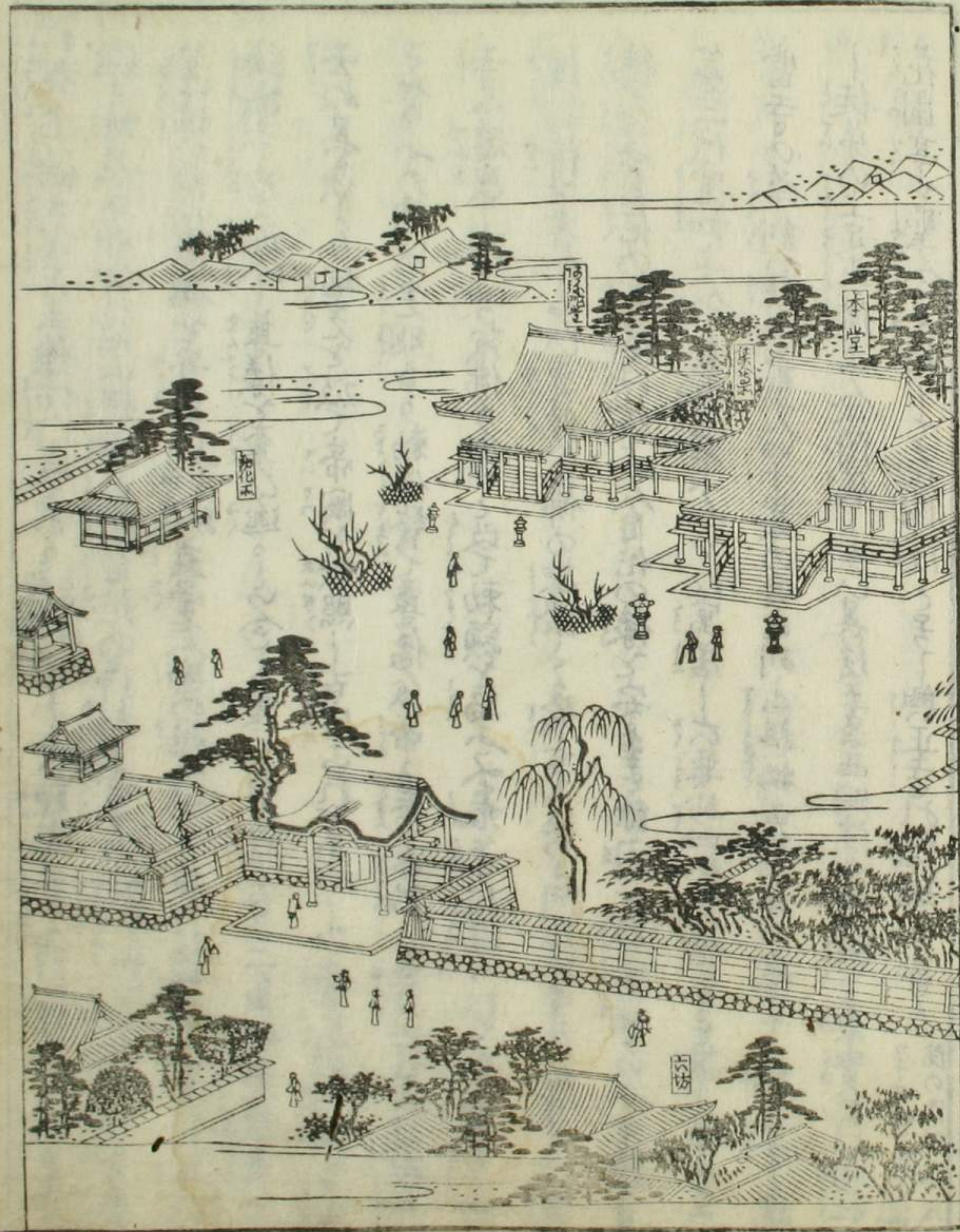
古宅左春といふあり五條高倉の西あり川ありて
おの川あり海坂門の松永ありてあれは室町表ありありの井
貞徳

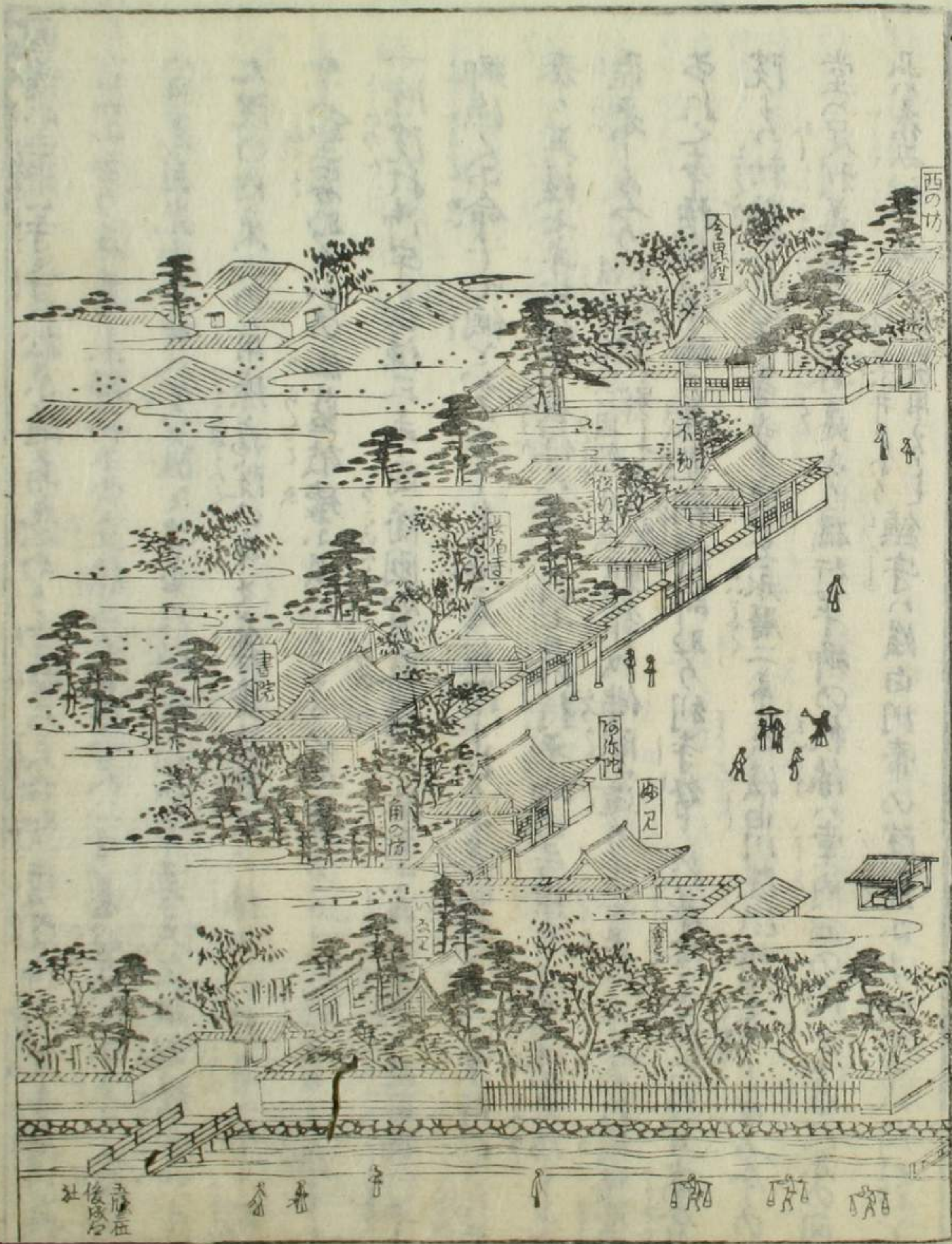
小車に坐してこれらとありありありと我小夕靄の花
又条の室町と道想稲荷の社にありあり
吾人のいふにたの法とてけ所むのたをた
とてていひけりめと吾表のありあり

日
室代と川のやーるは表にたをたのれとてはとては
全

俊成郷の社ハ松永通高倉の南人家は後ありあり新五條に位俊成郷の靈之
は所の郷
の霊にありて

俊成





因幡堂平寺寺の松原通馬丸のり寺勢の天台聖護院浄門主寺僧(真
言宗)あり本尊茶師如来の立像して長六尺二寸茶盤の上の左の脇に
日光月光十二神八菩薩と安んじ傳記曰く本尊天竺祇園精舎四十
九院の内東山の角療病院の本尊等身海檀木の像にて釋尊の如く
の(聖密)ありかの伽藍破壊及んとするの耐東方よりて飛去りしを
一條院れ浄宇長徳二年因幡國賀露津に海面に夜に光あり國司攝行平
郷漁人の命じて網とありて免海を渡りしむる小光明赫奕なる茶師の如く上
奉り其後七年故経て長保元年四月七日に行平郷の居館馬丸高は忽ち
飛来あり後光聖座因幡止まの則館被佛園造りて安んじの今に因幡堂
され之本願行平郷の息光朝禪師の如く寺勢に永安元年四月八日高倉
院より勅額あり平等寺と號と永曆二年以後白川院に所より來りしもの
堂は足利義教公の再建あり攝行平郷の親像の堂内西の間に安んじ本の間
其後必社と安んじ後堂の井あり鎮守は後白川帝の院宣よりして十八所は社と

勅清の後社社説ありて燈子社親善堂の本尊は慈覺大師の他愛深明王
弘法大師の堂内は安んじ攝行平郷の堂の西にありて常に河連と號し毎年二月十九日
縁起あり一日に日河連と引りしは恒例と執行藥王院より大黒天と安んじ當院は祇園佛所が
將井社と名帯は毎年
六月七日は所執喜天不動明王と安んじ桃の坊柳坊より指を氷室杖葉は之
社とあり又虚空藏と安んじ西之坊より金毘羅と安んじ桂方院より稻荷
社あり又不動行行者と安んじ長伯寺に裸形阿彌陀佛と安んじ長伯寺大は
二條院後の願ふらり女人成佛の證ふらりあり金毘羅の阿彌陀佛は長伯の
化有り系極誓願寺又粟津明神妙日を作と安んじ角の坊は稻荷大明神鑄る
又當寺の本尊は日本三如來の信濃若菜寺其一よりて釋尊五世本尊像
御戸開あり附に勅會は法事音楽等ありて嚴密より代々れ天子浄厄年
小中を名のり毎年毎月勅使來りありて所祈禱あり是と茶師詣りし
教昌社の高辻新町の東よりありし所辨財天女今真言の傍當社門前
の春海神は九月廿日

朝日宮あさひのみや白心通しろこころのとお 今の地蔵 五条のふちありを所天照を社あり清和天皇の清宇貞親年中佳姫

丹波國東田郡元生村に造宮一の眞後正記所降降宇之龜二年以今此地

小遷座せんざ 九月十六日 猿田彦神さるたひこのかみ 飛梅天満宮とびうめあまの宮 本社六所の内ありを宰府飛梅の

神明宮しんめいのみや 小落又條こおちまたじょう あり古此の融大長ゆいおほながの殿舎に封境して此地存あり社宮造

拜所まゐりどころ 之後世のちのよ あり社と建たて 今ま記此傳いまま記此つたえ

諏訪社すわい 五條の南二町後坊町ありを所信濃國諏訪社とい神あり

新玉津鴻社しんたまつこう 松原通玉津鴻町ありを所衣通姫ありて紀別玉津鴻とい社後成の

の勅傳のちくでん あり十月十日の 為家たけいえの若幸わかしげの附つ 社と毎月六度

たのむらねおれららけれ社とあり初はつ 玉津鴻社 前太政大臣

管之長くだんのちやう 社五條坊の西院ありを所天満宮ありて則管不是若郷の館ありを八月

十六日拜殿とらひ 額がく 天満宮書あまの宮のまがき 法親王ほふしんの御ご 天満宮降誕之地あまの宮のくだん

誕生水たうじんすい 本社南の垣の内あり 大師堂おおし 三太師さんたうし 自他のみづかひ 坊本社ぼくほん 近ちか 上冷泉かみづみ 家いへ あり

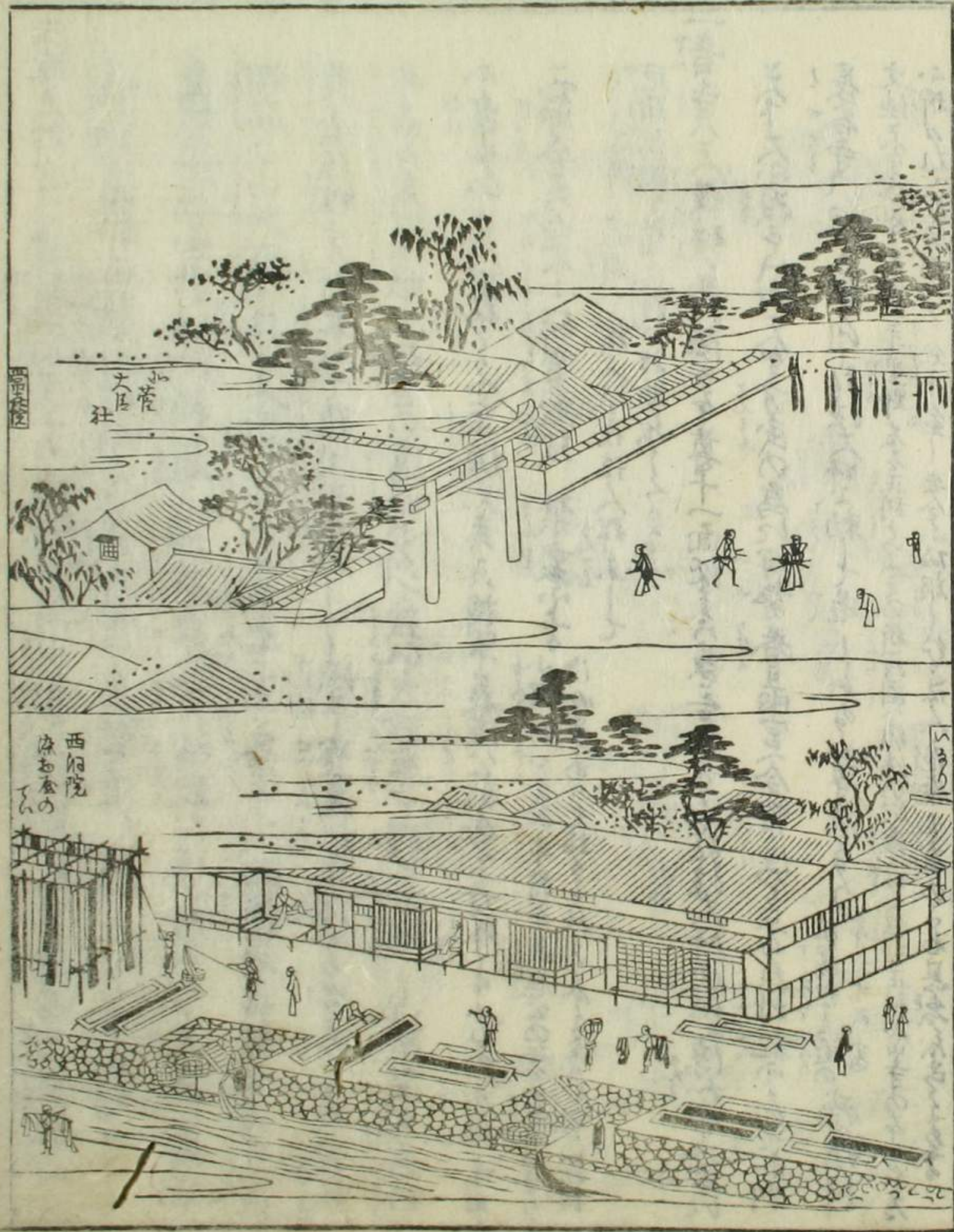
北宮きたのみや 管之長くだんのちやう の心こころ ありを所 常喜院じやうきゐん 北宮大長きたのみやおほなが の西隣にし 荒木あらか 天満宮あまの宮 堂内だうない あり



新玉津鴻社

新玉津鴻社
奇合小神紙

前大僧正
光海

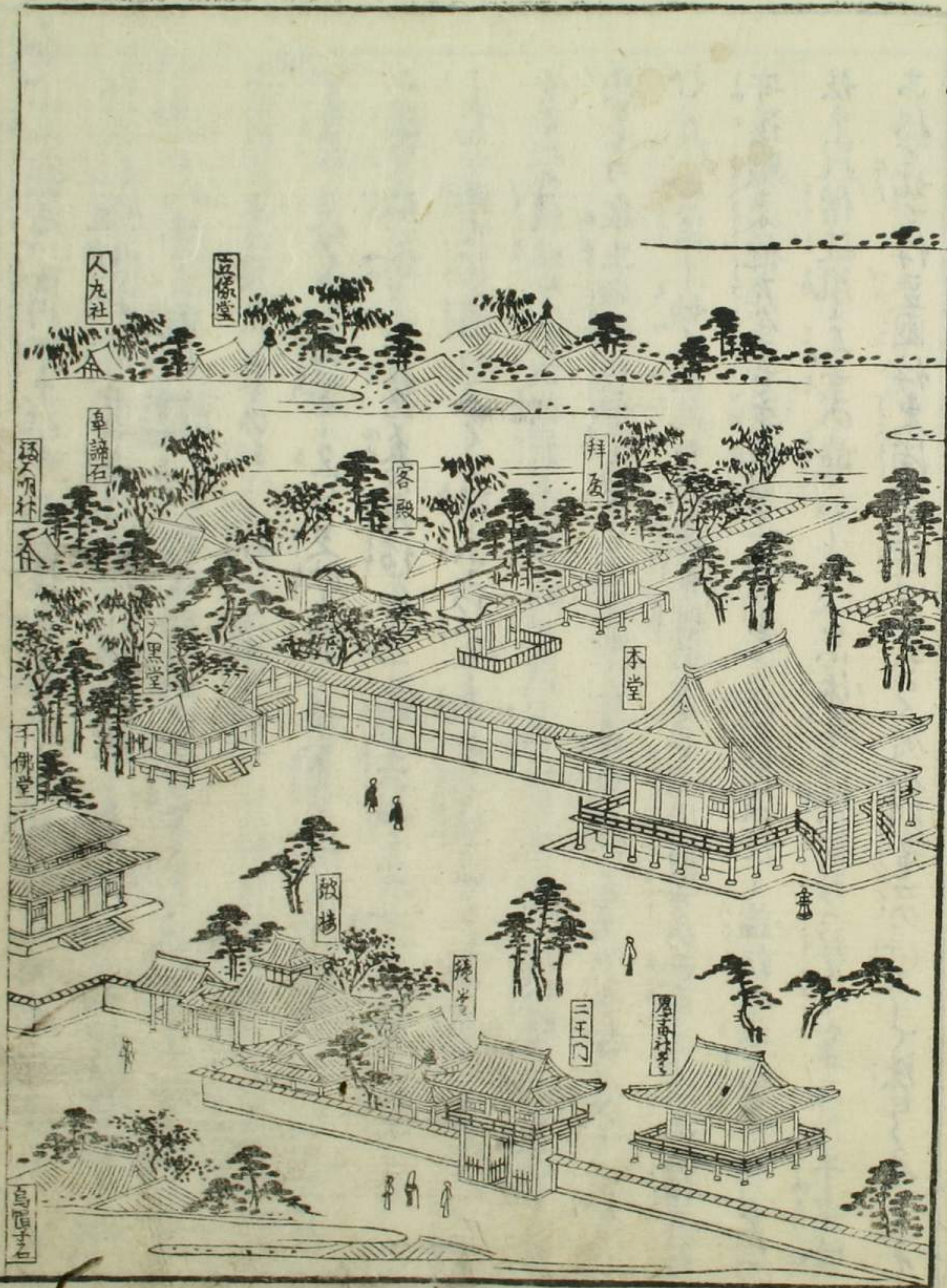




新住吉社の醒井通高辻の角あり系所松別住吉明神之俊成に勧誘ありありと
 荒神社の醒井高辻の心あり文派年中撰別腸尾より勧誘に
 化粧水の西院四條の南あり
 藍染川と小野河は流るる所なり人本をとりけり川
 落入て死せり故に婚札の響入は格を通る事な成忌
 小松内府重盛別業と室町四條の南西側あり
 一説其の地は公任の旧邸と云ふ高橋
 あり近年感と清水命あり
 松惠比須社の猪熊通松原北あり系所蛭子村之
 當社の付神不祀者人目等のなき
 勧誘あり十月廿日にまんとせり
 天道社の五條坊門猪熊の角あり系所日月の社あり
 左刀縣に松原の條猪熊の西折田人家の裏あり古は所は傳教大師の開基し人々の勧誘
 の傍より授けり左刀の堂あり名は五十七代の止行道徳傳都親孝
 吾人の身も成堂舎の應仁の終火に焼亡し其後より西六条河原堂あり遷て金寶寺あり
 石神社の石神通三条南あり
 系所豊石彌命奇石宍命古は此中忠親郷の
 亭あり故に中山社と云ふ
 更雀寺の四條通大宮北西あり淨土宗あり本寺阿弥陀佛の表日徳之中將實方約長
 勅をけて石松北の吾妻小野陸奥於て率に其靈雀と云ふ川に其寺を築き住
 主規紹法不れ爰小野故小雀森と標に
 此地舊に内裏の御堂院
 實方塔 寺也
 小五



あたごまのりの
 こぶねと
 いりいり定まる
 ねをれおれお番あり
 桶より 花盗人
 幻術指 猿
 愛宕岩あり 狐は
 やうくわり 鶴
 ねをれお人川後
 節分 花見
 猿引 鳩角力
 餓鬼責 名残
 さいのろく 棒志より 性慾坊主
 熊坂 産生 湯立
 わしのいへん 男伊達
 棒より



大光山本園寺へ堀川松原に南より法善寺ありて一致低めり同基の日蓮上人にて
初相別鎌倉松葉谷又建立ありて法善堂と名づけ一宗最初の精舎なり
日蓮上人姓三國氏 聖武帝の御孫 父遠別の刺史貴方右衛門少輔次男なり母は法京氏之
貞應元年二月十六日午の跡に房別小湊浦に誕じ十二よりて同國清澄寺に登り言
とまひ十八よりて落髮し名法足性と號し後小日蓮と改む幼稚より又賢くて常
小虚空藏と祈るあり夜の長に老僧と号す手明星の如くあり宝珠と号す又換すと号す
して一と聞て十と悟れりて諸宗よりて南都北嶺よりて園城入りて法善堂に堂
をのめ諸法宗の議判家旁敬りてこれに藏經と換りて諸經中王最妙の金言
いりり衆生成佛の根えりりる法をわたり建長元年二月廿日二十よりて朔日に
むら合掌し始て南無妙法蓮華經の七字と唱清澄寺の南面よりてこの僧具外
守護職東條左金吾宗信等とのりて法善と演説し論釈に議文とありてこれ
法宗の僧徒風は本葉の隨か如し是一宗流布の盤觔なり弘長元年五月平重時
あれと妬て伴豆圃伴東海に左遷せりてありて相別菴口の江よりて殊せりて下とて

敷草に座ありて天候ありて震動して右刀取眼くると劔服にこれより相換り
たふ發る死とありてありて又承平八年より依後流るるありてありてありてあり
これに赦免状とありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
敬し上人の文承平十年八月に鎌倉にきて申別身延し入て艸菴と結びて此朝を
張折て佛供の材のたふし月と約て經書と照しありて耐夜に雨の窓よりこれより
わしに邪ありてありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
後平重盛の御宇弘安三年十月十二日武藏国忍原に於て法善宗仲を遷化あり 行年
鎌倉松葉谷に法善堂と日朗の附屬し又印ありて住し日静に耐勅預所と名づるあり
光明帝に勅ありて相別鎌倉より法善堂に遷りて住し日静に耐勅預所と名づるあり
本堂に法善經と尊とあり 日助僧都一字 立像堂に釋迦佛と安あり 豆別侍衆の海蔵
これのあり 立像堂に釋迦佛と安あり 豆別侍衆の海蔵
方丈に祖師堂 日蓮上人の教具外日朗日印日静日像の教とあり 利堂 女を安あり
方丈に妙法花院と稱しありてありてありてありてありてありてありてありてあり
泉諦石 一名新撰石 此鳥峯曼陀羅 日蓮上人の御影あり 曼陀羅の地蔵と稱す 此曼陀羅の地蔵と稱す

佐女牛の井を
醒井 五条乃
南ふわり井
小銘のり

佐女牛井

元和二年
右樂再建之

足利將軍義政
系通寵す
とんげいみぬ愛
今用りハもく
草履の苔滑井
も理のくはか
赤らむりハもく
願者之李白が護
石枕冷蒼苔
寒泉湛月明
さけの湯泉
つるまへ



本願寺ハ西六條小あり宗貞親鸞聖人の弘法なり

聖人の傳ハ未卷華頂山 當寺北阜創
植髮教堂の所ふあり

龜ノ院淨宇文永九年聖人の息女覺信尼公

同野左衛門佐 勅と蒙く洛東大谷
度細郷の室より

始ニ廟堂ヲ建テ

十一年の當寺 龜ノ院勅願所ニ龍谷山本願寺ヲ號シ賜ハ第ニ代
如信上人 廟の嫡孫ニ善喜上人の

如信上人 廟の嫡孫ニ善喜上人の

其頃眞別大綱郷小居信尼故ハ覺惠法師 度細の子母ハ
覺如上人 息子ニ覺信尼の甥

覺如上人 息子ニ覺信尼の甥

大谷の留主職とありまより覺如上人曾三世孫継で後伏見院正安元年
に勅願寺ニ此論旨賜ハ第八代蓮如上人の附家承ハ不覺留宛開ハ此在世小

に勅願寺ニ此論旨賜ハ第八代蓮如上人の附家承ハ不覺留宛開ハ此在世小

ころハ門の衆徒あれと好で寛正六年に當寺を破却ス又寺口三井の尻迄蓮如上人

ころハ門の衆徒あれと好で寛正六年に當寺を破却ス又寺口三井の尻迄蓮如上人

小荷擔一近松寺ハ寄附一聖人の教傳ハ此に移とあれより蓮如上人ハ國孫經

小荷擔一近松寺ハ寄附一聖人の教傳ハ此に移とあれより蓮如上人ハ國孫經

圓一哉前右侍ハ淨堂と宮北陸七別化益一其後文明十一年ハ別ハ辨郷小教堂

圓一哉前右侍ハ淨堂と宮北陸七別化益一其後文明十一年ハ別ハ辨郷小教堂

と建立一第九代實如上人ハ紅衣を賜ハ第十代澄如上人の附淨堂と拾州大坂石室と

と建立一第九代實如上人ハ紅衣を賜ハ第十代澄如上人の附淨堂と拾州大坂石室と

十一代顯如上人の附二品親王の勅書と賜ハ淨門跡ヲ號と勅許ハあり又淨堂と紀別

十一代顯如上人の附二品親王の勅書と賜ハ淨門跡ヲ號と勅許ハあり又淨堂と紀別

證ハ森ふ川一邊ニ正十九年八月六條堀川ニ移ト 委ハ信長記
拾遺ふあり

證ハ森ふ川一邊ニ正十九年八月六條堀川ニ移ト 委ハ信長記

本堂ハ用ハ親鸞聖人自化の教傳故安基ハ 信尼ハ用ハ五世の附彫刻ハ由ハ息女覺

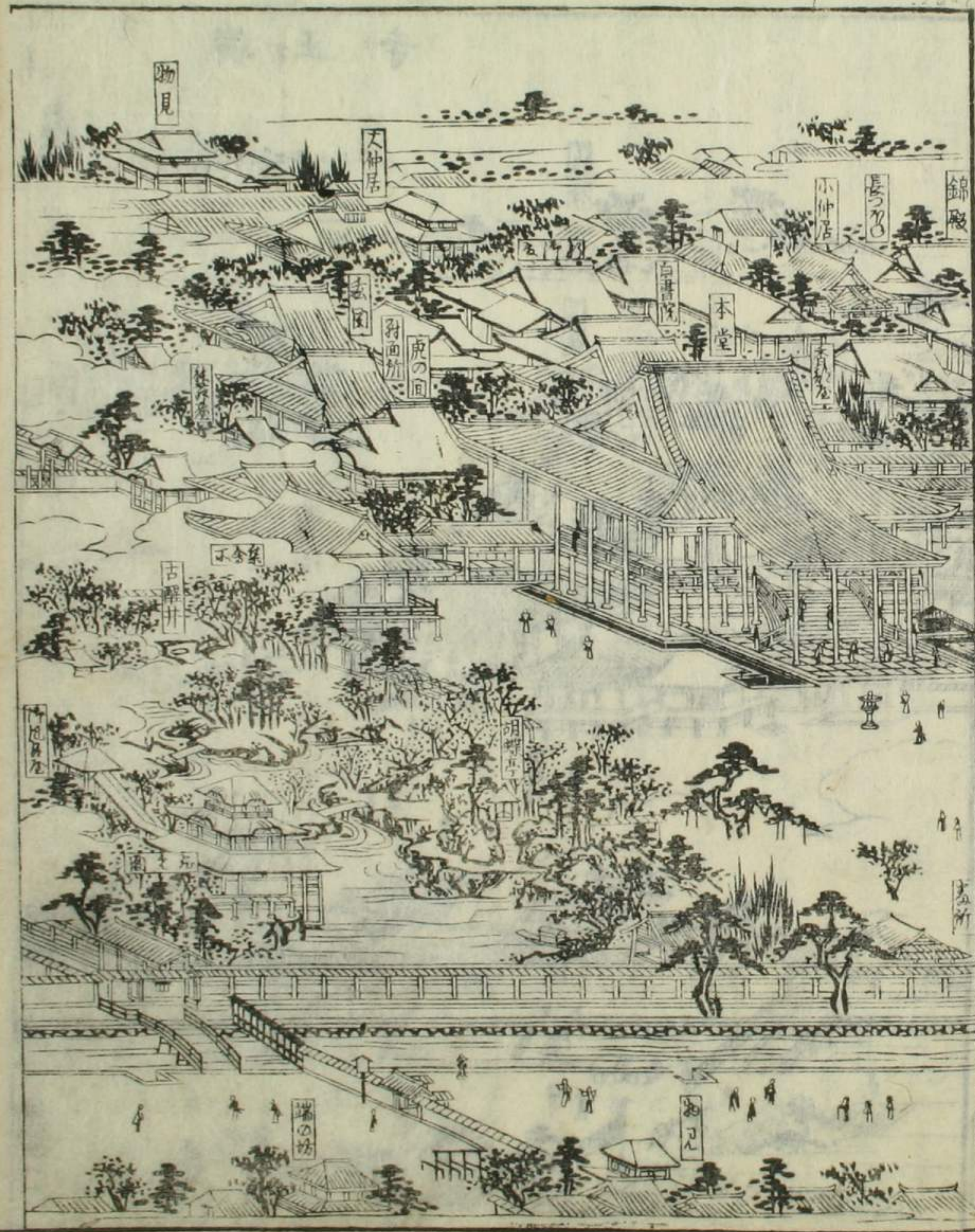
本堂ハ用ハ親鸞聖人自化の教傳故安基ハ 信尼ハ用ハ五世の附彫刻ハ由ハ息女覺

信尼ハ用ハ五世の附彫刻ハ由ハ息女覺 信尼ハ用ハ五世の附彫刻ハ由ハ息女覺

西六條
本願寺北御門前



掛して漆のわらひ糸の細きせり故に骨肉の細と稱し坐像ありて長三尺寸餘之を本堂に大を
 預寺のくた紫宸殿拜儀より佛堂造りハ紫宸殿の模範之堂前の高師の内裏に日一
 南山の脇壇より前住大僧正具外歴代の畫像と安ん餘間ふ九字十字の之號
 安ん寂如上人の筆之 毎年報恩講七益夜の法會ハ 阿彌陀堂本尊阿彌陀佛を
 立像長三尺餘して春日の化有り脇壇ふの高祖聖徳太子法然上人の畫彩版
 安ん 當門主法如上人の 集會所 法會集の所の 轉輪藏 一切經藏を額と 撞鐘堂 鐘を
 上人の降讃と 泰慶隆寺にありて少納言信西入道の銘あり 鼓樓 鼓を懸ハ大和國西大寺ふありて
 由縁鐘銘ハ信長記拾遺ニ委 下間氏ありあれ 唐門 南の築休長はあり門ハ一豊國社ふありて
 四方ハ虎 浪間 天井ハ池と画南の方ハ車トあり 對面所 大慶間といふは長安の唐門
 白書院 小慶間といふは画ハ右ハ日筆あり 黒書院 西ハ狩野探幽の 具外圖雕殿續春
 前ハ社舞臺あり 館永安館桃仙館寺れ殿舎高閣多しとふも繁華のやとふれば略ハ大仲居
 屋所といふは伏見城ありとふも繁華のやとふれば略ハ大仲居
 唐破風ハ大慶天の像あり三ツの像と踏 滴翠園 鎌倉所の東ありて
 高橋と飛雲閣と號之代秀吉公の附聚樂亭ありとふも繁華のやとふれば略ハ大仲居



興正寺

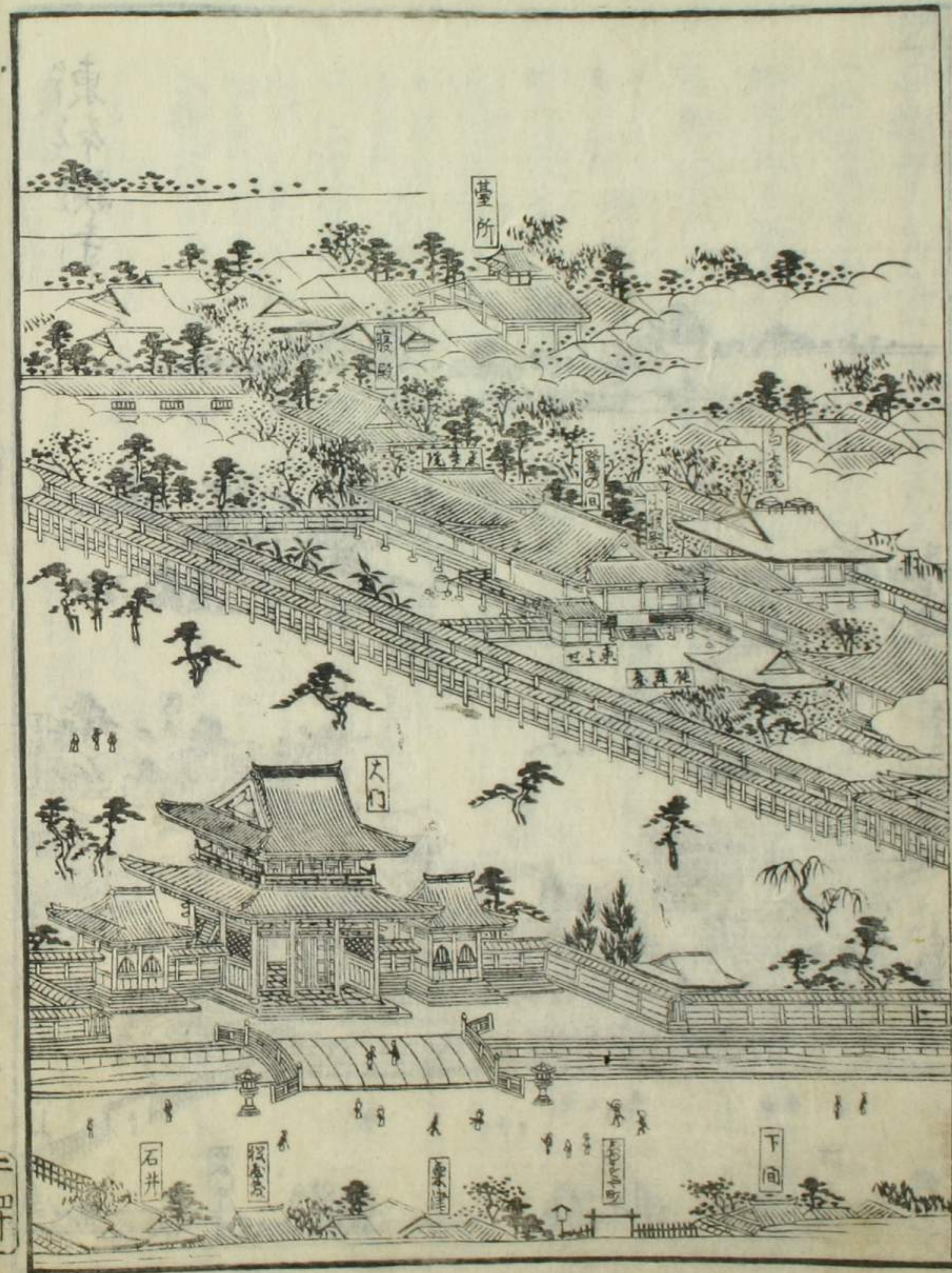


九條関白尚實公の清筆之閣上の画(霞)富士中岡の画(三十六哥仙)とも
 古法眼之信(筆)之下(と)詔賢殿(と) 飛雲閣の記(殿中の東)より十六世湛如上人の所
 伝(り)て當(り)門(主)法(如)上人(筆)依(依)味(味)
 池(の)高樓(楼)巡(り)て常(に)小(小)松(松)浮(浮)む(む)以(以)依(依)滄(滄)浪(浪)比(比)と(と)龍(龍)背(背)橋(橋)依(依)て踏(踏)
 場(場)あり(り)け(け)色(色)桜(桜)本(本)殿(殿)あり(り)胡(胡)蝶(蝶)亭(亭)の傍(傍)み(み)夜(夜)光(光)石(石)あり(り)嘯(嘯)月(月)坡(坡)池(池)の巡(巡)る(る)
 坡(坡)より(り)黄(黄)鶴(鶴)臺(臺)高(高)岡(岡)の西(西)あり(り)所(所)湯(湯)殿(殿)あり(り)醒(醒)眠(眠)泉(泉)一(一)名(名)古(古)醒(醒)井(井)と(と) 洛陽七井の其一
 あり(り)當(當)新(新)門(門)主(主)
 文(文)如(如)上人(上人)の(の) 艶(艶)雪(雪)林(林)其(其)梅(梅)花(花)多(多)青(青)蓮(蓮)樹(樹)の(の)葉(葉)其(其)み(み)て(て)又(又)澆(澆)花(花)亭(亭)と(と)あり(り)く(く)間(間)より
 碑(碑)の(の)銘(銘)あり(り) 遊(遊)一(一)筆(筆)林(林)園(園)小(小)同(同)う(う)して(して)鳥(鳥)獸(獸)禽(禽)魚(魚)柳(柳)の(の)川(川)あり(り)末(末)て(て)今(今)親(親)の(の)芳(芳)園(園)あり(り)
 常(常)樂(樂)寺(寺) 西(西)本(本)願(願)寺(寺) 在(在)尊(尊)阿(阿)弥(弥)陀(陀)佛(佛)春(春)具(具)他(他) 立(立)像(像)長(長) 在(在)基(基)存(存)覺(覺)上(上)人(人) 本(本)願(願)寺(寺)の(の)三(三)世(世)
 上人(上人)の(の)傳(傳)あり(り)
 其人(其人)聰明(聰明)廣(廣)智(智)而(而)顯(顯)教(教)於(於)智(智)僧(僧)正(正)ふ(ふ)け(け)密(密)教(教)取(取)經(經)惠(惠)信(信)正(正)ふ(ふ)ま(ま)び(び)その(その)真(真)言(言)依(依)悟(悟)り(り)且(且)持(持)お(お)
 双(双)蓮(蓮)一(一)て(て)ふ(ふ)依(依)若(若)き(き)り(り)當(當)寺(寺)初(初)の(の)文(文)通(通)官(官)具(具)後(後)洛(洛)東(東)今(今)小(小)池(池)に(に)は(は)常(常)樂(樂)寺(寺)林(林)は(は)十(十)九(九)年(年)に(に)作(作)ら(ら)る(る)に(に)
 興(興)正(正)寺(寺) 西(西)本(本)願(願)寺(寺) 在(在)尊(尊)阿(阿)弥(弥)陀(陀)佛(佛)安(安)阿(阿)弥(弥)の(の)依(依)當(當)寺(寺)の(の)初(初)の(の)祖(祖)親(親)者(者)聖(聖)人(人)四(四)十(十)年(年)に(に)作(作)ら(ら)る(る)に(に)
 山(山)科(科)此(此)郷(郷)中(中)に(に)造(造)宮(宮)興(興)正(正)寺(寺)と(と)名(名)け(け)高(高)身(身)真(真)佛(佛)上(上)人(人)附(附)屬(屬)あり(り)其(其)後(後)今(今)此(此)殿(殿)中(中)
 庄(庄)付(付)谷(谷)より(り)後(後)醍(醍)醐(醐)帝(帝)の(の)時(時)依(依)老(老)寺(寺)改(改)む(む) 委(委)卷(卷)首(首) 十四(十四)世(世)經(經)家(家)上人(上人)在(在)教(教)寺(寺)蓮(蓮)如(如)
 上人(上人)を(を)歸(歸)依(依)し(し)依(依)老(老)寺(寺)出(出)て(て)新(新)堂(堂)を(を)建(建)て(て)自(自)号(号)と(と)用(用)て(て)興(興)正(正)寺(寺)と(と)稱(稱)す(す)と(と)稱(稱)す(す) 十七(十七)世(世)顯(顯)上人(上人)の(の)五(五)世(世)永(永)祿(祿)十(十)二(二)年(年)に(に)
 門(門)跡(跡)を(を)考(考)へ(へ)て(て)天(天)平(平)九(九)年(年)に(に)作(作)ら(ら)る(る)に(に)

東本願寺



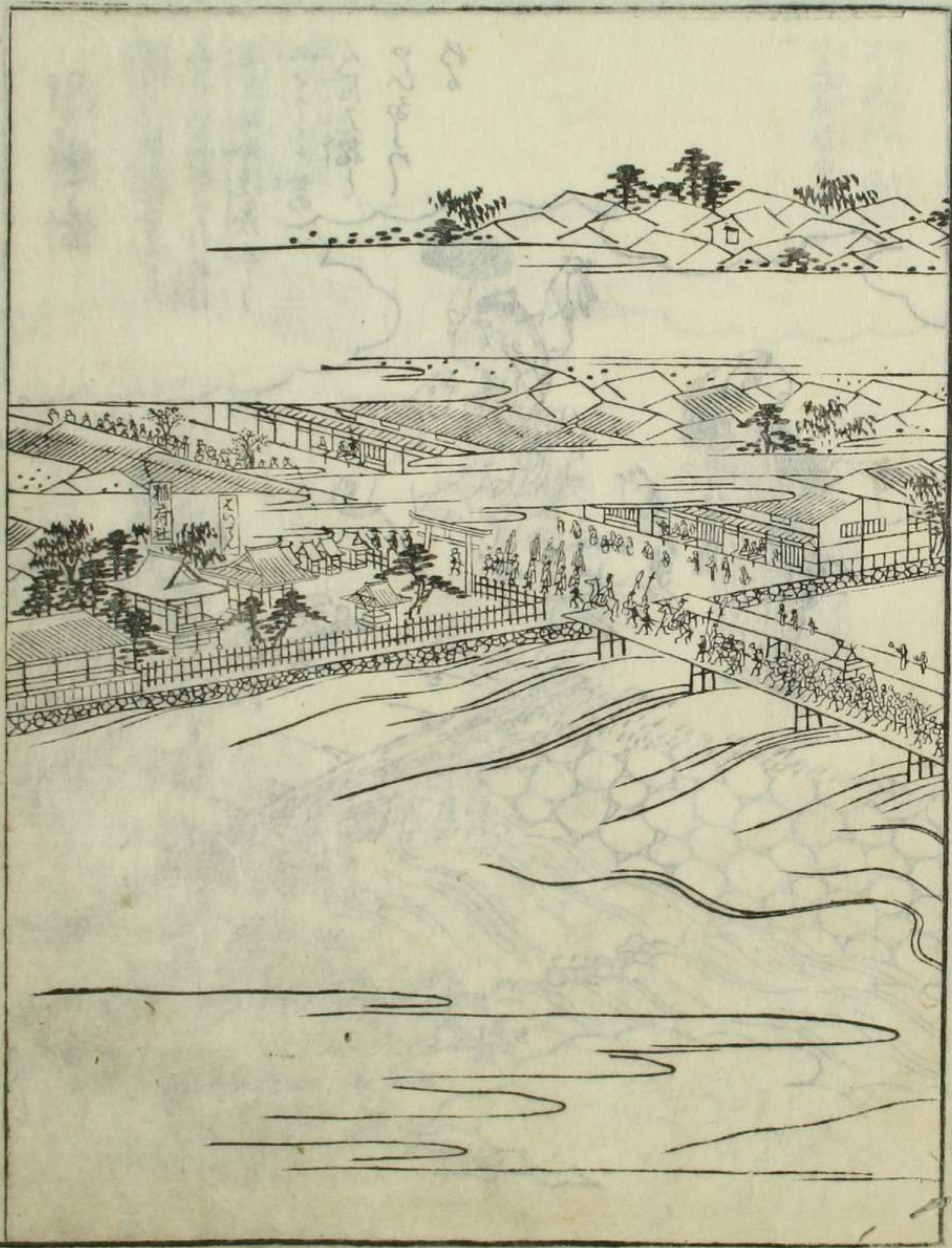
東本願寺は鳥丸六条の南ふり字有親孝聖人の弘法して開ふり十
 一世顯如上人の嫡子教如上人慶長七年開東の 台命は蒙りて六町四方は寺
 地依揚り新清堂といふも東本願寺御門跡と稱し宗祖より十二世の血脉
 坂相續は本堂の親鸞聖人自他他像と女坐像 坐像ありて長八寸餘ありける像
 小つて 脇壇より前住大僧正具外歴代の畫と安後餘間より九字十字の之號と
 ありて かつり開ふり聖人の筆より阿彌陀堂の本尊阿彌陀佛の安阿彌の他
 脇壇より聖徳太子法然上人具外三朝六高僧の畫像は安後大門 本堂の御
 舍利弗 大門の山あり初秀吉の壯觀ありて伏見城あり双の扉は菊の
 安あり 菊門 金板は花飾ありて傍中の表あり 伏見城中の井戸 玄園は式堂
 阿彌陀堂の門 世の人日暮の門といふ 撞鐘堂 伏見城中の井戸 玄園は式堂
 捕りて長七間 寢殿 大寢殿といふ 小寢殿 小寢殿といふ 白書院 是書院の間
 幅三間の一枚板 寢殿 寢殿といふ 寢殿 寢殿といふ 寢殿 寢殿といふ
 小路の間ありは舞臺の集會堂は西あり具外殿同堂舎等は花飾板はく
 して作境小勝まづを解きよめてはは略に
 東殿 今の會同 台命よりて増地依揚り東本願寺は別館といふ舊け所と
 在備あり





東殿
 東本願寺別荘
 ろり俗工の百石
 庭園

河原院の旧跡ありて池邊の出湯小九重塔あり是刻融大匠の古墳あり融公の社の
 境内の隣地下寺町万善寺 池水東の高瀬川より流るる常小塔々々水戸と柳子に
 小川のほとりあり
 といふ臨地殿の庭小塔遠別れ好なり風芝奇くして真妙あり
 炬火殿七條鴨川の西より倉所倉指魂命と風神を併せく天智帝の御傳也
 又稻荷の糸の目神樂臨幸の時七條河原に神の松明を照し神樂を遊する
 此社の舊例ありて故小名くん 當社舊弘長二年二月神託より七條の西東河原の東に建つ
 具後應仁の亂鴨川の西七條の北に遷し室永八年今の地遷す
 家集 いさりの系日
 稻荷山々一の娘一を娶て却のふみたりいなり 貞徳
 金芝寺七條間の町此約當あり七條道場と移し時宗にて本尊阿彌陀仏と安坐に
 脇壇に一遍上人の像あり いよへの俗姓伊豫國河原七郎通久の息ある河原府通廣の妻
 通久の娘なりて大尊の如くして即ちの兩に變地と化して頭と云く剛
 僧とある時建長年中之始の台觀と云い又修禪に法を推認の示現とあり四白れ
 文と云くありしより時宗に改め 舊い地佛工は橋定朝を後小大の考附と云くあり
 六万人決定往生の位と弘む 洛陽観音巡りの 具一あり
 成興寺九條鳥丸のわら本尊觀世音の慈尊大師の化あり
 宇賀社の九條の東小あり倉所宇賀社といふ所の東西の徑と宇賀辻といふ





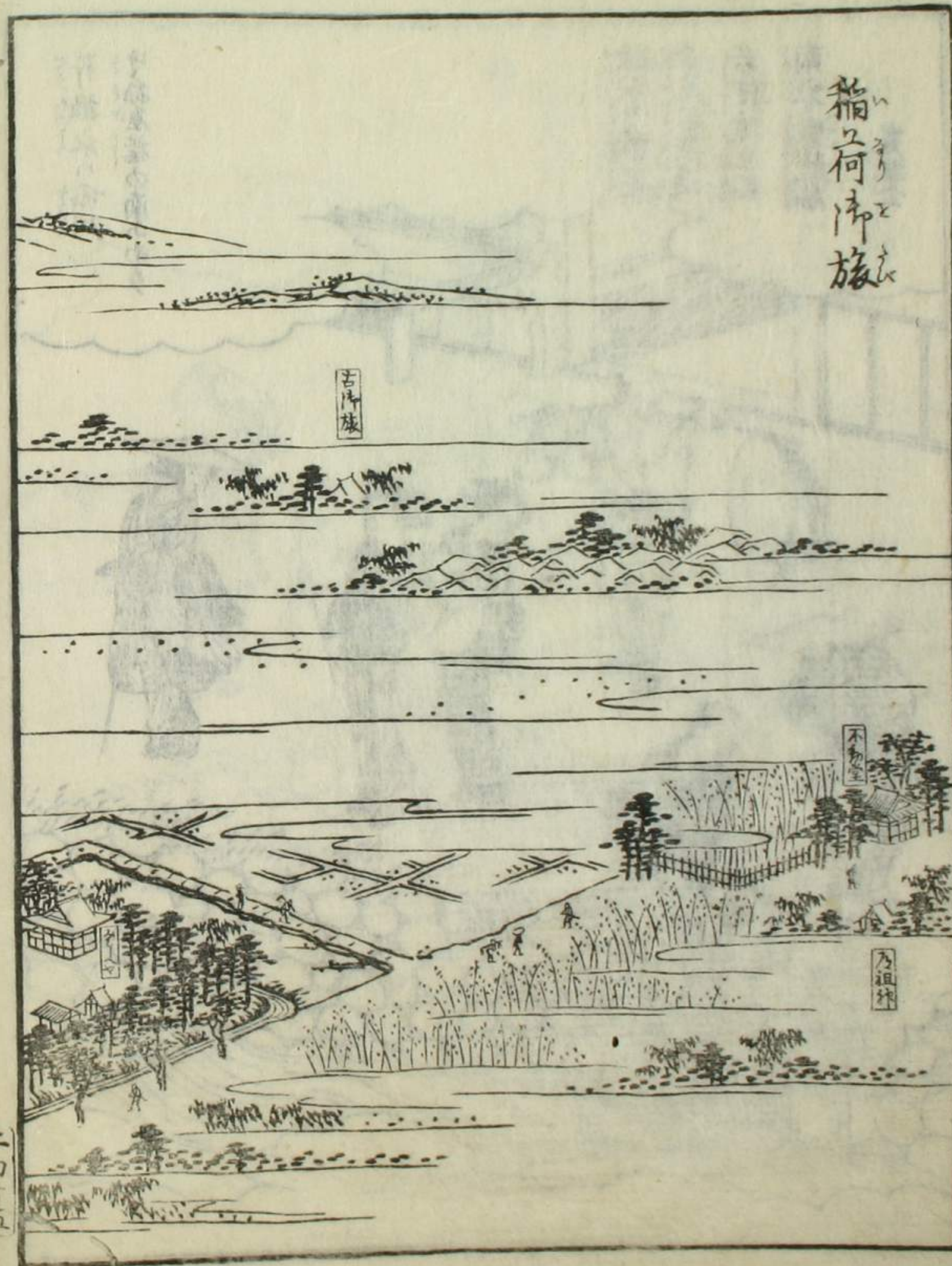
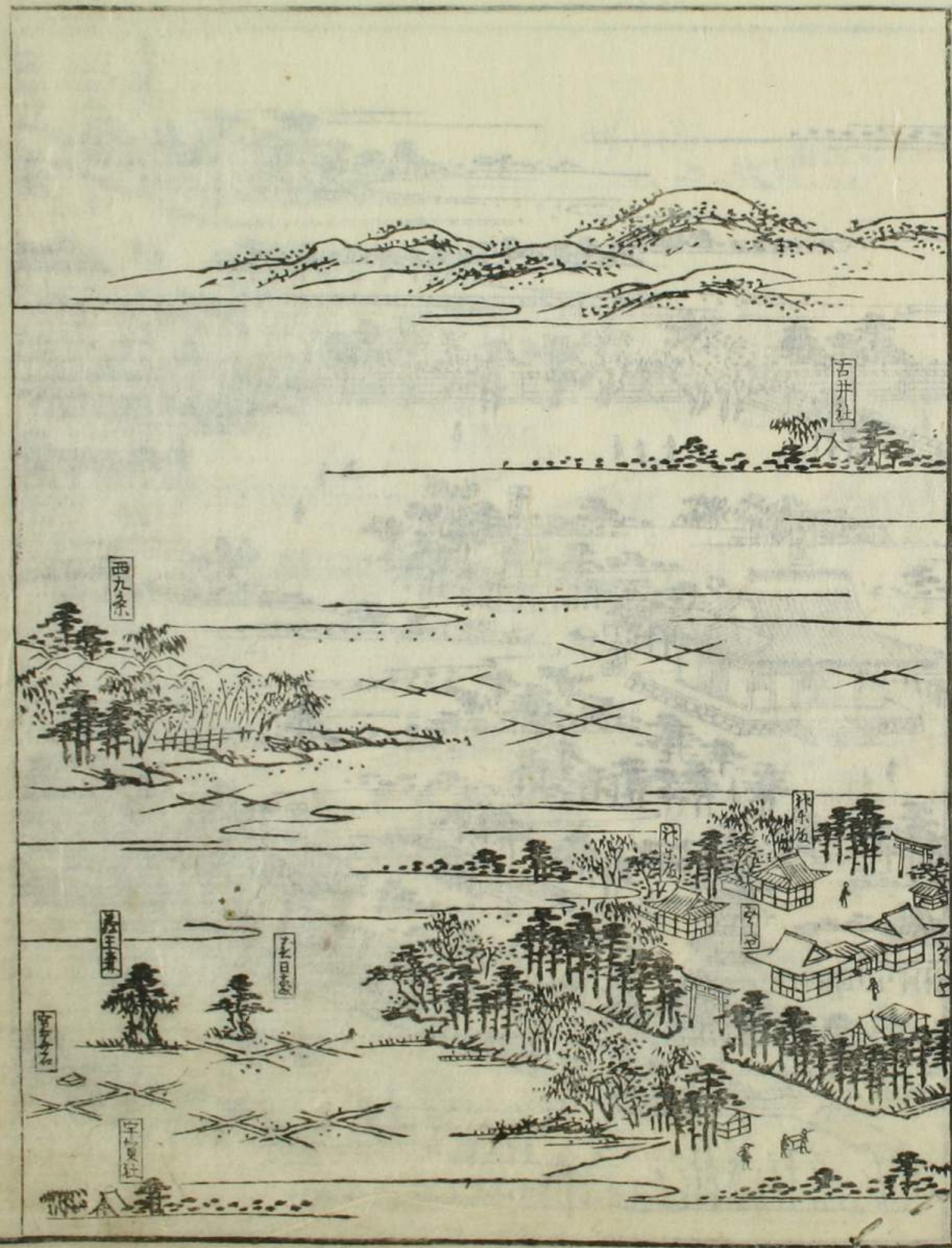
芥根水の坂川
 けねろ橋の南ふあり

融公千載宅
 今見石泉清
 若使陸生品
 南零應競名
 寛雅公

芥根水

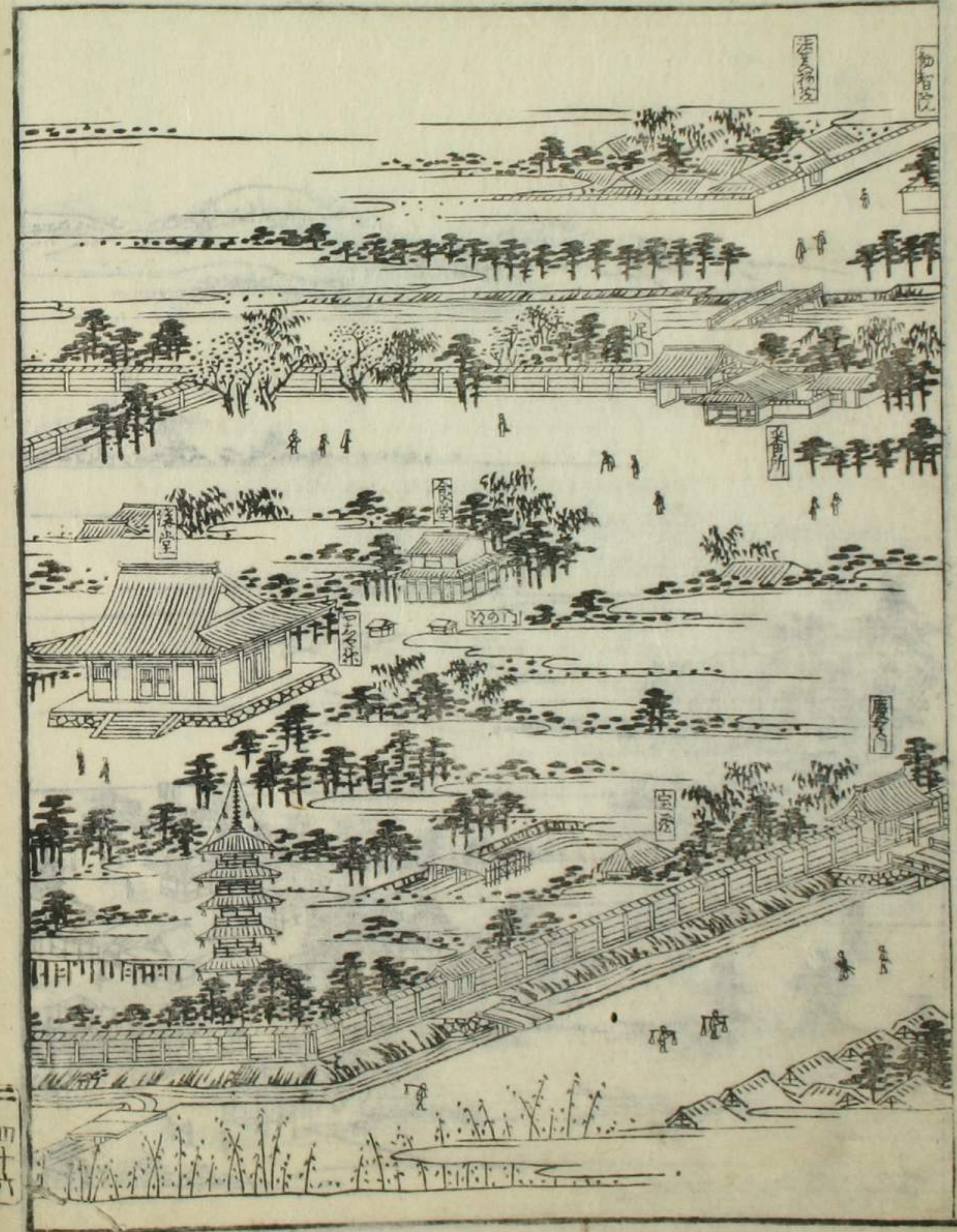
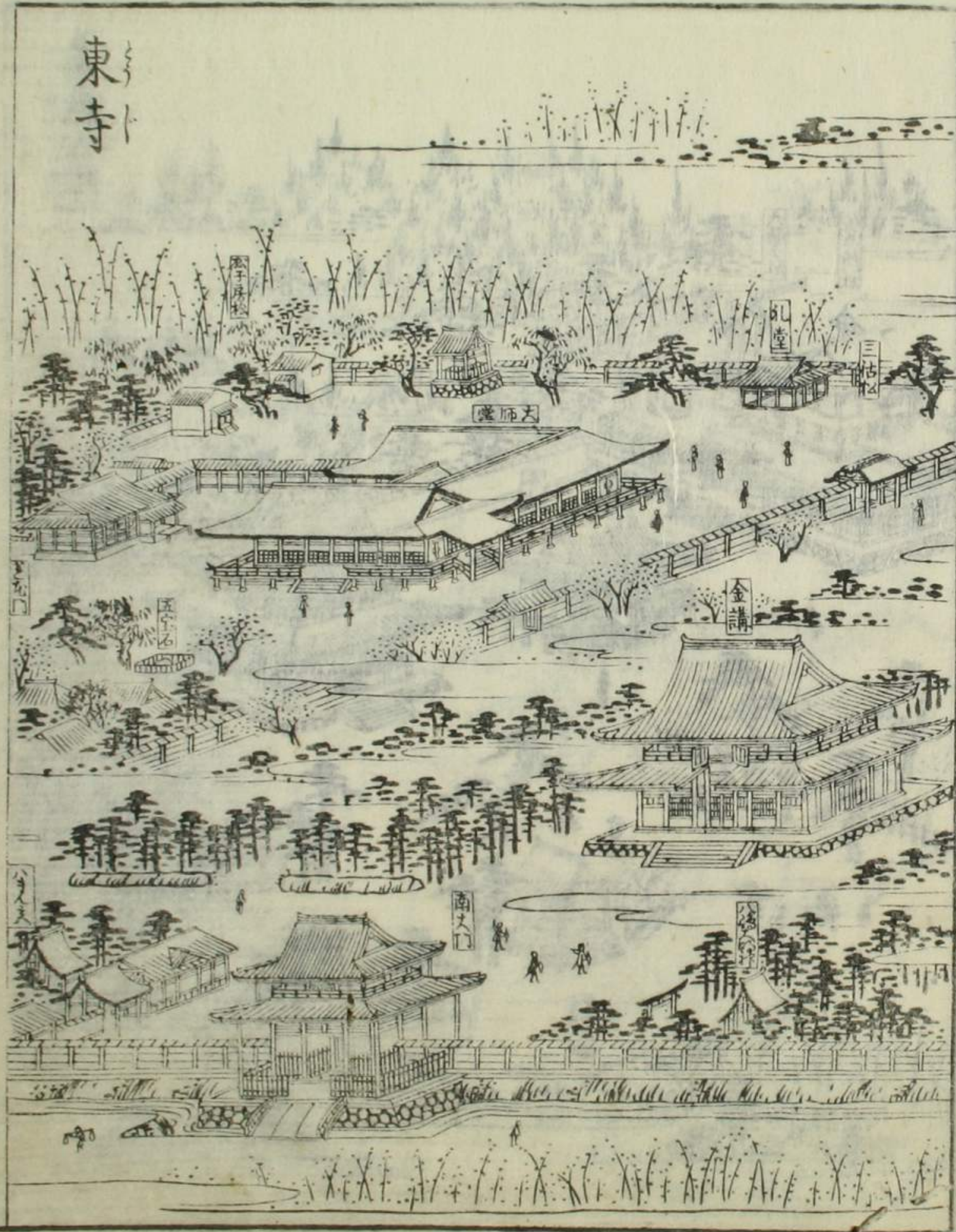


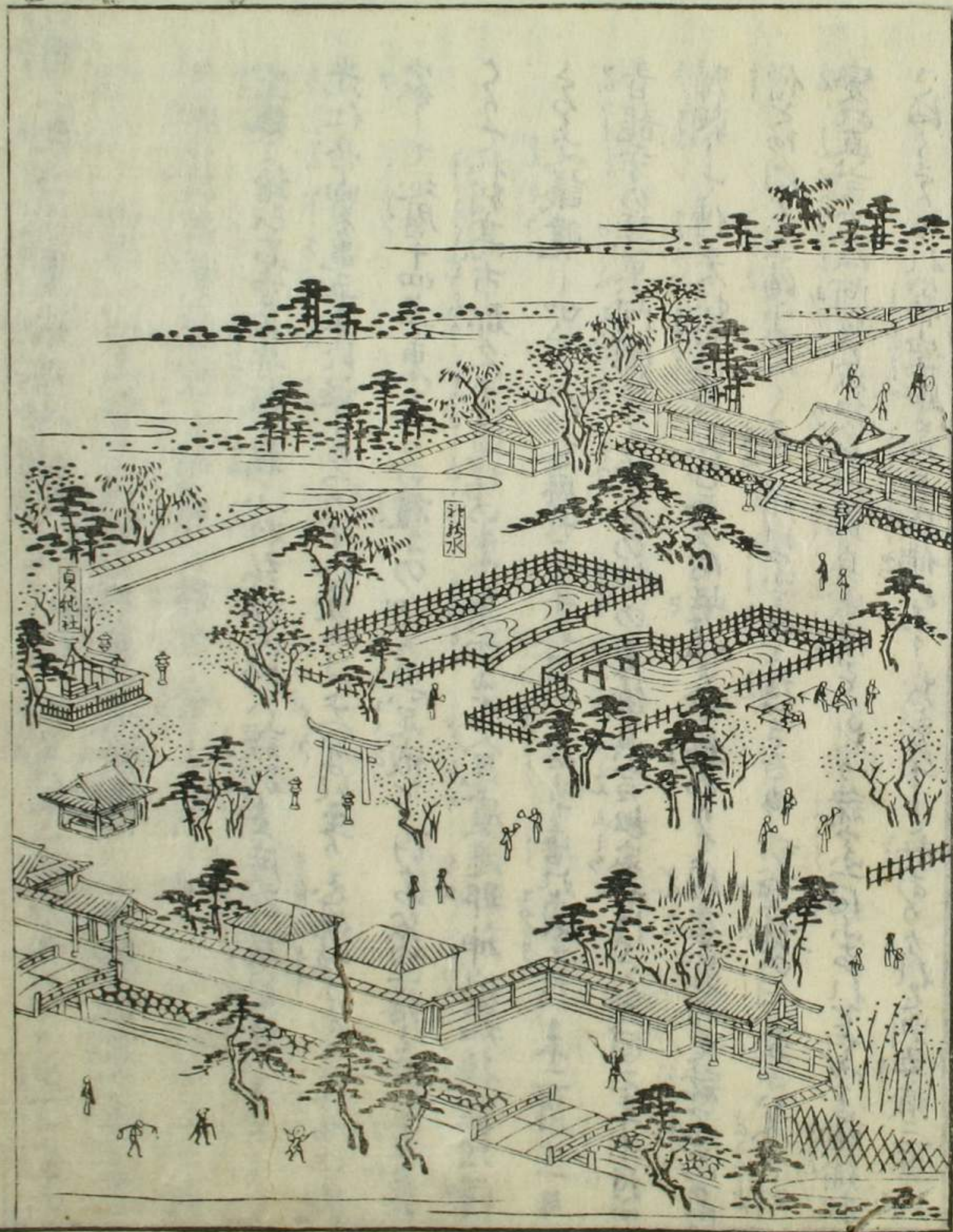
月見橋
 坂川の南生坂屋橋より
 ふりのふたふた信法
 園更科郡境をふり
 ぬきりくせあ
 人月橋と
 ついあり
 ゆる



箱
荷
旅

東寺





八幡の教王護國寺秘密傳法院東寺入元寺大宮西八條の南より真言宗の
源より用祖の弘法大師舊は地内裏の鴻臚館ありて宋朝は賓客を修す
漢朝の鴻臚館は空三藏を給く精舎を宮其創を准して弘仁四年元氣
空海に給ひ右寺に守敏小幡小幡弘法大師の誤別多度郡屏風浦の庵より
光仁帝寶龜五年に誕あり十八歳より大學に至り志佛性ありて母は出
家して延暦十四年東大寺の檀所のほり具足戒をけり空海と改む聖武の
よりて和別高市郡久米道場の東塔の下より大毘盧遮那神變加持經を得
ると文議曉しつとれ延暦廿三年八月入唐して唐貞元廿一年二月十一日
青龍寺の慧果阿闍梨より佛の奥儀真言秘密を授く大同元年十月
歸朝して傳來に密法弘むあり付塔を勅ありて内裏にありて詔宗乃名
僧とありて空海小幡より所は宗義と論せりとあり空海の日板宗大日神
變の真言一な阿字依經とあり即身成佛とあり諸宗曰ふんをよき論に
さほりたりとあり帝空海即身成佛とあり勅ありたりと則五藏三摩地

觀入忽首より五佛の寶冠を身より五色の光明を放ら面貌金多ありて毘盧
遮那佛とあり帝御座よりより諸宗の僧の公堂と地小よりありとあり
ありとあり示凡日本に弘法七年来紀別高野とあり場を金剛峯寺に建立し仁明帝
御宇承和二年二月廿日十二歳より高野公定より具後延喜廿一年に弘法大師
と謚宣下りあり日本生生死不思議の人二人あり生ありて死ありて空海
金堂本尊は系師佛脇士は日月天女あり焼失の後講堂本尊は六日如来
等々安本尊は千手千眼觀世音聖實僧正の化あり脇士は地藏
夜叉神雄雄の夜叉神とあり大師の所化あり五重塔四重は
八幡宮大師神を拜して形なり八幡社當寺建立以前の神あり
寶藏大師の法衣を藏む執筆堀寶藏の南の堀なり南大門二階の塔門之
西の門西の門より大師入堂の蓮華門西の門より大師入堂の
猶凡東の方の築地の上より築地造営の附

西院同祖弘法大師の教と安曇氏 法眼康勝の伝あり後堂より大師の他より

大黒天 西の院の傍より 愛染明王 宝持坊より 五寶石 後堂の白砂より

三鉢松 西の院の傍よりあり大師唐土より帰朝の時に秘蔵教相應の地あり

松子房松 西の院の傍より 松の松より 松の松より

後醍醐天皇則入洛あり播磨書寫りて新田義興より小僧高時感亡のるを泣き榎正成兵庫より

迎奉りて勅諭ありて東寺へ行幸松子房にては松のるを同く入すのるを奉りて

前大僧正頼意より松のるを奉りて

植屋しゆりやうりて松のるを奉りて松のるを奉りて

羅城門の舊跡に朱雀通 今の千本より 四塚ありは門の植武王を平安城造営の時

初て建たしなり天宮裏に面して外郭に惣門あり 樓上より毘沙門を安曇氏

今東寺の観音堂あり 梅嶽録より 都良香花壇にありて付三氣齊風掃新柳髪と詠り

よりクルハ樹上舞ありて水清僧洗日容髪と詠り

萬祥山大通寺遍照院ハ條柳首ありは地源經基公の殿舎にて

天徳五年小亮のり後には所垂廟と建六孫王持現と崇奉り具後録

倉右大臣實朝公の後室之位禪尼大檀越とあり真空律師法護にて

因心と戒律之論真言等兼学の梵刹とありふり

佛殿 本尊阿彌陀佛 本地堂 本尊不知明王の 興教大師の他

六孫王社系所ハ經基公の神靈之源氏の祖神ありて 御當家ハ造営あり

神前ハ法儀より奉納の石燈あり 神廟 本社の後より 貞純親王社 本社の興

神龍池 神前の池ありて例系ハ 辨財天社 長を五寸余 誕生水 源備仲公誕生の

七井の其一あり 阿彌陀佛 立像長二尺五寸安阿彌の他ハ判考聖人乃持尊

の御當寺ハ持尊のり今門内の 寶冠釋迦佛 方丈は安曇氏實朝公の法方より

方丈の庭 盧山の影を模して 寶冠釋迦佛 方丈は安曇氏實朝公の法方より

滿仲公誕生地 八條通大西の西あり 歡喜林 七条朱雀の東ありは所ハ歡喜

福大明神森 今六孫王社神嶽所ハ 歡喜林 壽院の四坊あり

由本詳あり

由本詳あり



徳原

出口

けいせい

賢者の

此柳

其角

鴻原傾城町（今赤松）朱雀野（今赤松）にありは新上古の鴻臚館（今赤松）の地より中頃の觀音寺（今赤松）院
 の封境（今赤松）より西口の白田字の飯堂の口より又傾城郭の万里小浜（今赤松）
 二條の南方の町あり其先の東山殿（今赤松）遊楽の地あり天正十七年系二即
 左衛門林又一即といふ浪人上訴より傾城町を免許せし其の郭を
 一町り地を飯新屋と號し又柳の雙樹を柳町と稱し其の地を
 也其より十二年と歴て慶長七年に六條へ移る今この室町新町西洞院
 五條橋通の南の方の町の郭の中は小浜云々ありしより三筋町と號し
 六條通の西洞院川より右橋の傾城町に入りては町の初め今より又
 町又糸の南西側醜匠の居宅異なりは町の志は今日に存せり
 又安永十八年今今の朱雀野へ移るは係と號するは且肥前の
 鴻原より草四郎といふもの一擧に起し初乱るるは時肥前もあ
 りしは騷りたる世の人係系と異名はけり是は所の名をせり

松山齋藤
 彌右衛門

